愛媛大学埋蔵文化財調査報告　XXII

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

── 2009年度 ──

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２０１１

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

── 2009年度 ──

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２０１１

序　　文

国立大学法人愛媛大学の敷地は、松山市内および愛媛県内各所に点在し、敷地総面積は464ヘクタールに及ぶ。そのうち、大学本部と４つの学部が所在する城北団地には文京遺跡、農学部と附属高等学校がある樽味団地には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地では鷹子遺跡、教職員宿舎のある北吉井団地では桑原西稲葉遺跡など、数多くの遺跡がある。これまで、愛媛大学では、埋蔵文化財調査室を設置し、校舎建設や営繕工事等の際、埋蔵文化財への影響度をはかるための試掘調査を行い、埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合には、影響度に応じて全面調査、立会調査の発掘調査を実施してきた。さらに、大学構内における遺跡の有無や精度の高い分布状況を把握する確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護に努めている。

こうした発掘調査成果を客観的に資料化し、調査報告書にまとめて公開することによって遺跡の評価が行われる。ところが、愛媛大学の場合、出土品の多さと頻繁な発掘調査によって、速やかな報告書刊行を容易に行えない状況にあった。こうした状況を打開するため、2000年に大規模な全面調査の報告書刊行に向けて調査室の体制を再整備し、整理作業を前進させることとする一方で、小規模調査である試掘・立会・確認調査についての報告と、本格調査の概要報告を併せた『埋蔵文化財調査室年報』を刊行してきた。本書は、その2009年度に実施した埋蔵文化財調査等をまとめた年報である。

本書をまとめるにあたっては、学内はもとより学外の多くの機関・個人の方々から協力を得た。その労に深く感謝するとともに、本書が多くの方々に利用・活用されることを願っております。

平成23年１月７日

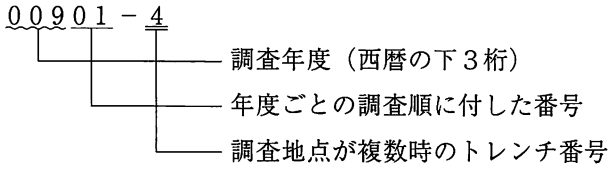
愛媛大学埋蔵文化財調査室

室長　田　崎　博　之

例　　言

1．本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が2009年度に実施した事業、特に大学構内で実施した試掘・立会・確認形式で行った小規模調査の成果等を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告XXIIにあたる。

2．埋蔵文化財調査室では、本格全面調査・構内遺跡確認調査については、遺跡ごとに調査次数を付しているが、同時に、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って、立会・試掘形式の小規模調査も含めて、すべての調査に調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下３桁の後に年度ごとの調査順に01からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点（トレンチ）を調査した場合、－の後に地点番号を付して表示している。



3．本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、竪穴式住居：SC、溝：SD、炉跡・竈：SF、柵列：SA、水田：SS、土壙：SK、柱穴・小穴：SP、自然流路：SR、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。

4．本書で表示した方位・標高数値は、本格調査においては、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第Ⅳ系にしたがっている。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示している。

5．土色・遺物の色調は、1991年以降、小山正忠・竹原秀雄編著（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）『新版標準土色帖』に準拠しているが、本文中ではマンセル記号は省略した。

6．本書に使用した遺構図は、田崎博之･吉田広･三吉秀充･宮崎直栄･濱田美加･田中いづみが作成し浄写を行った。

7．本書で使用した写真は、田崎・吉田・三吉が撮影した。

8．本書は田崎・吉田・三吉が執筆し、三吉が編集を行った。

9．本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。

本文目次

Ⅰ　2009年度の埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業 ……1
1　埋蔵文化財調査委員会 ……1
(1) 第１回埋蔵文化財調査委員会 ……1
(2) 第２回埋蔵文化財調査委員会 ……1
2　埋蔵文化財調査室の事業 ……3
(1) 発掘調査 ……3
(2) 整理作業 ……3
(3) 印刷物の刊行 ……7
(4) 広報、資料等の利活用 ……9

Ⅱ　2009年度の発掘調査 ……15
00901　(城北団地) 工学部建設材料試験棟 (旧工学部倉庫) 改修工事に伴う調査 (文京遺跡第38次調査) …15
00902　(城北団地) 総合実験実習棟新営その他工事に伴う調査 (文京遺跡第39次調査) ……22
00903　(城北団地) 60周年記念建物新営その他工事に伴う調査 (文京遺跡第40次調査) ……33
00904　(城北団地) 課外活動施設新営その他工事に伴う調査 ……43
00905　(御幸団地) 学生寄宿舎新営その他工事に伴う調査 (御幸遺跡１次調査１区) ……47
00906　(樽味団地) 市道桑原82号線道路改良工事に伴う上水道引込管･電柱･ガス引込管移設工事に伴う調査 …62
00907　(城北団地) 理学部構内環境整備工事に伴う調査 (文京遺跡41次調査) ……66
00909　(樽味団地) 植物工場他新営工事に伴う調査 ……75
00910　(城北団地) 理学部構内外灯設備工事に伴う調査 ……87
00911　(城北団地) 60周年記念会館 (仮称) 新営その他工事に伴う調査 (文京遺跡42次調査) ……88
00912　(持田団地) 給水設備改修工事に伴う調査 (持田団地構内遺跡３次調査) ……103
00913　(城北団地) 理学部構内カーゲート取設工事に伴う調査 (文京遺跡43次調査) ……105

挿図目次

図１　2009年度城北団地地点位置図 (縮尺 1/2000) ……11・12
図２　2009年度樽味団地調査地点位置図 (縮尺1/2000) ……13
図３　2009年度持田団地調査地点位置図 (縮尺1/2500) ……14
図４　2009年度御幸団地調査地点位置図 (縮尺1/1200) ……14
図５　00901調査全体図 (縮尺1/150) ……16
図６　00901調査Ⅱ区・Ⅵ区平面図・土層断面図 (縮尺1/50) ……17・18
図７　00902調査Ⅰ区Ⅲ層上面検出遺構平面図 (縮尺1/150) ……23･24
図８　00902調査Ⅰ区Ⅳ層上面検出遺構平面図 (縮尺1/150) ……25･26
図９　00902調査Ⅰ区Ⅳ層中遺物出土状況 平面図・土層断面図 (縮尺1/150) ……27･28
図10　00902調査Ⅱ区平面図 (縮尺1/100) ……33

図11　00903調査地点位置図（縮尺1/500）……34
図12　00903調査遺構平面図・土層断面図
（縮尺1/150）…… 35･36
図13　00904調査地点位置図（縮尺1/1000）……44
図14　00904調査１・２トレンチ土層断面図
（縮尺1/50）……45
図15　00905調査区配置図（縮尺1/500）……49
図16　00905調査１区古代および弥生時代上層水田
関連遺構実測図（縮尺1/200）…… 51･52
図17　00905調査１区東壁・南壁・SR-８土層断面
（縮尺１/50）…… 53･54
図18　00905調査１区弥生時代水田関連構実測図
（縮尺1/200）……61
図19　00906調査地点位置図および土層柱状図
（縮尺1/500・１/40）……63
図20　00908調査地点位置図（縮尺1/1000）……67
図21　00908調査１・２区平面図・土層断面図
（縮尺1/50）……68
図22　00908調査６～11区平面図・土層断面図
（縮尺1/50）……70
図23　00909調査地点位置図（縮尺1/1000）……76
図24　00909調査１・３～８トレンチ土層断面図
（縮尺1/50）……77
図25　00909調査２・９トレンチ平面図および土層
断面図（縮尺1/50）……78
図26　樽味団地南半部における自然流路
（縮尺1/500）…… 85･86
図27　00910調査区平面図・土層断面図
（縮尺1/50）……87
図28　00911調査地点配置図（縮尺1/500）……89
図29　00911調査Ⅰ区平面図・土層断面図
（縮尺1/300・1/50）……90
図30　00911調査Ⅱ区平面図・土層断面図
（縮尺1/150・1/300・1/50）……92
図31　00911調査Ⅲ区平面図・土層断面図
（縮尺1/250・1/50）……95
図32　00911調査Ⅳ-１区平面図・土層断面図
（縮尺1/60）……96
図33　00911調査Ⅴ区平面図・土層断面図
（縮尺1/100・1/40）……97
図34　00911調査Ⅵ区平面図・土層断面図
（縮尺1/100・1/50）……98
図35　00911調査第３工区平面図（縮尺1/300）……99
図36　00911調査第３工区土層断面図
（縮尺1/100）…… 100
図37　00912調査区平面図・土層柱状図
（縮尺1/250・1/50）…… 104
図38　00913調査区平面図・土層柱状図
（縮尺1/300・1/40）…… 106

写真目次

写真１　（城北団地）法文学部本館104接地
修繕工事立会…… 6
写真２　（城北団地）プール送水管修繕工事立会 … 6
写真３　（城北団地）工学部建設材料試験棟砕石置場
取設工事立会…… 6
写真４　（樽味団地）総合研究棟Ⅲ期耐震改修
電気設備工事立会…… 6
写真５　（城北団地）愛大ミューズ周辺側溝蓋等
取設工事立会…… 6
写真６　（城北団地）総合実験実習棟（工学系）新営
その他工事立会…… 6
写真７　（城北団地）総合実験実習棟（工学系）新営
その他機械設備工事立会…… 6
写真８　（樽味団地）総合研究棟（Ⅲ期）耐震改修
機械設備工事立会…… 6
写真９　（城北団地）60周年記念会館（仮称）新営
その他工事立会…… 7
写真10　（樽味団地）農学部守衛室排水管路
改修工事立会…… 7
写真11　（樽味団地）起波機移設工事立会 …… 7
写真12　（城北団地）課外活動第３共用施設改修
機械設備工事立会…… 7

写真13　（城北団地）60周年記念建物（仮称）新営
その他工事（その２）立会…… 7
写真14　（城北団地）60周年記念建物（仮称）新営
その他工事（その２）立会…… 7
写真15　文京遺跡39次調査現地説明会の様子…… 9
写真16　文京遺跡39次調査遺跡見学会の様子…… 9
写真17　文京遺跡40次調査現地説明会の様子…… 9
写真18　公開講座の様子（１）…… 9
写真19　公開講座の様子（２）…… 9
写真20　公開講座の様子（３）…… 9
写真21　00901調査表土層掘り下げ作業の様子 ……19
写真22　00901調査Ⅰ区完掘状況（南から）……19
写真23　00901調査Ⅱ区西区遺構検出状況
（東から）……19
写真24　00901調査Ⅱ区西区東部遺構検出状況
（西から）……19
写真25　00901調査Ⅱ区西区東部完掘状況
（南西から）……19
写真26　00901調査Ⅱ区東区遺構検出状況
（東から）……20
写真27　00901調査Ⅱ区東区完掘状況（南西から）…20
写真28　00901調査Ⅱ区東区北壁土層 ……20
写真29　00901調査Ⅲ区・Ⅳ区完掘状況（北から）…20
写真30　00901調査Ⅵ区完掘状況（東から）……20
写真31　00901調査Ⅶ区南区完掘状況（西から）……21
写真32　00901調査Ⅶ区北区完掘状況（南から）……21
写真33　00901調査Ⅴ区・Ⅶ区・Ⅷ区完掘状況
（南西から）……21
写真34　00902調査Ⅰ区調査前の状況（西から）……29
写真35　00902調査Ⅰ区表土層除去状況（西から）…29
写真36　00902調査Ⅰ区SD-１・２・３・５完掘状況
（西から）……29
写真37　00902調査Ⅰ区SD-4完掘状況
（北東から）……29
写真38　00902調査Ⅰ区SD-4完掘状況
（北西から）……29
写真39　00902調査Ⅰ区Ⅲ層上面検出遺構完掘状況
（西から）……29
写真40　00902調査Ⅰ区SC-12遺構検出状況
（東から）……30
写真41　00902調査Ⅰ区SC-12遺物出土状況
（東から）……30
写真42　00902調査Ⅰ区SC-12床面検出状況
（東から）……30
写真43　00902調査Ⅰ区SC-12完掘状況（東から）…30
写真44　00902調査Ⅰ区SK-41炭化物出土状況
（東から）……30
写真45　00902調査Ⅰ区SK-24完掘状況（東から）…30
写真46　00902調査Ⅰ区SB-66（東から）……30
写真47　00902調査Ⅰ区SR-11完掘状況（西から）…32
写真48　00902調査Ⅰ区SR-11遺物出土状況……32
写真49　00902調査Ⅰ区Ⅳ層上面検出遺構完掘状況
（東から）……32
写真50　00902調査Ⅰ区Ⅳ層中遺物出土状況
（東から）……32
写真51　00902調査Ⅰ区Ⅳ層中遺物出土状況
（南から）……32
写真52　00902調査Ⅰ区Ⅳ層中遺物出土状況
（南から）……32
写真53　00902調査Ⅰ区完掘状況（西から）……32
写真54　00902調査Ⅱ区完掘状況（西から）……32
写真55　00903調査表土掘削後全景（南から）……38
写真56　00903調査Ⅲ層上遺構全景（南から）……38
写真57　00903調査ガス管調査区（西から）……38
写真58　00903調査作業状況 ……38
写真59　00903調査現地説明会 ……38
写真60　00903調査Ⅲ層上遺構全景（北東から）……39
写真61　00903調査SR-008 土層（北東から） ……39
写真62　00903調査SR-008・010合流部土層
（北西から）……39
写真63　00903調査SR-009 ～ 011（北西から）……39
写真64　00903調査SR-010土層（西から）……39
写真65　00903調査SR-010 ～ 013（北西から）……39
写真66　00903調査SR-011土層（西から）……40
写真67　00903調査SR-012土層（西から）……40
写真68　00903調査SR-013土層（西から）……40
写真69　00903調査SR-015・020（東から） ……40
写真70　00903調査SR-008・016・023土層
（東から）……40
写真71　00903調査SX-018・019（南西から） ……40
写真72　00903調査SP-024・025検出（西から） ……42
写真73　00903調査Ⅲ層完掘（北西から）……42
写真74　00903調査BS47区土器出土（北東から） …42
写真75　00903調査BS・BT43区Ⅳ層焼土等集中部
（南から）……42

写真76　00903調査BR47・48区Ⅳ層断割
（南西から）……42
写真77　00903調査南壁土層（北東から）……42
写真78　00904調査調査地点遠景（南西から）……46
写真79　00904調査１トレンチ全景（南から）……46
写真80　00904調査１トレンチ西壁土層
（南東から）……46
写真81　00904調査１トレンチ西壁土層（南端部）…46
写真82　00904調査２トレンチ全景（南から）……46
写真83　00904調査２トレンチ西壁土層 ……46
写真84　00905調査１区表土剥ぎ作業風景
（北西から）……55
写真85　00905調査１区調査区西壁の手榴弾・模擬弾
の出土状況……55
写真86　00905調査出土した手榴弾・模擬弾・薬莢等
……55
写真87　00905調査１区の遺構検出状況
（北東から）……55
写真88　00905調査１区SD-１およびSD-２・４完掘状況
（北東から）……55
写真89　00905調査１区東半SD-２・４土層断面
（南西から）……56
写真90　00905調査１区東部SD-２土層断面 ……56
写真91　00905調査１区東部SD-４土層断面
（西から）……56
写真92　00905調査１区東半部の弥生時代
遺構の検出状況（北西から）……56
写真93　00905調査１区東南部上層水田畦畔と
SD-７の検出状況（東から）……56
写真94　00905調査１区上層水田とSD-７・９～11
完掘状況（北から）……56
写真95　00905調査１区東南部の上層水田と
SD-７完掘状況（北西から）……57
写真96　00905調査１区東部の上層水田と
SD-７完掘状況（南から）……57
写真97　00905調査１区東南部の上層水田面の
調査風景……58
写真98　00905調査１区北東部の上層水田面の
調査風景……58
写真99　00905調査１区東北部の上層水田面の
足跡検出状況……58
写真100　00905調査１区SD-７底面に残る
鍬・鋤による掘削痕跡 ……58
写真101　00905調査１区東南部の上層水田下層の
土層堆積状況（北西から）……58
写真102　00905調査１区南東部の下層水田完掘状況
（遠景、北西から）……59
写真103　00905調査１区南東部の下層水田と
SD-21の完掘状況（北西から）……59
写真104　00906調査１トレンチ調査風景
（南東から）……64
写真105　00906調査１トレンチ完掘状況
（南から）……64
写真106　00906調査２トレンチ調査風景
（北西から）……64
写真107　00906調査２トレンチ土層（北西から）…64
写真108　00906調査３トレンチ調査風景
（北から）……64
写真109　00906調査３トレンチ土層（南から）……64
写真110　00906調査４トレンチ近景（東から）……64
写真111　00906調査４トレンチ土層（東から）……64
写真112　00906調査５トレンチ近景（東から）……65
写真113　00906調査５トレンチ土層（東から）……65
写真114　00907調査１～３区調査前の状況
（北西から）……68
写真115　00907調査１～３区完掘状況
（北西から）……68
写真116　00907調査１区完掘状況（東から）……68
写真117　00907調査２区完掘状況（東から）……68
写真118　00907調査４～23区調査前の状況
（北東から）……72
写真119　00907調査４区完掘状況（南東から）……72
写真120　00907調査５区東半部完掘状況
（北西から）……72
写真121　00907調査５区西半部完掘状況
（南西から）……72
写真122　00907調査６区完掘状況（北から）……72
写真123　00907調査７区完掘状況（北から）……72
写真124　00907調査８区完掘状況（北から）……72
写真125　00907調査９区完掘状況（西から）……72
写真126　00907調査10区遠景（南東から）……73
写真127　00907調査10区完掘状況（西から）……73
写真128　00907調査11区遠景（南東から）……73
写真129　00907調査11区完掘状況（南から）……73
写真130　00907調査12区完掘状況（南から）……73

写真131　00907調査13区完掘状況（北から）……73
写真132　00907調査14区完掘状況（南東から）……73
写真133　00907調査15区完掘状況（西から）……73
写真134　00907調査16区完掘状況（西から）……74
写真135　00907調査17区完掘状況（南から）……74
写真136　00907調査18・19区完掘状況（東から）…74
写真137　00907調査20・21区完掘状況（東から）…74
写真138　00907調査22区完掘状況（北西から）……74
写真139　00907調査23区完掘状況（南東から）……74
写真140　00909調査１トレンチ全景（東から）……79
写真141　00909調査２トレンチ位置（西から）……79
写真142　00909調査２トレンチ東半部遺構検出状況（東から）……79
写真143　00909調査２トレンチ西半部Ⅳ層上面遺構検出状況（西から）……79
写真144　00909調査２トレンチ東端遺構検出状況と土層断面（南から）……80
写真145　00909調査２トレンチ東半部遺構検出状況と土層断面（南東から）……80
写真146　00909調査２トレンチ中央よりの遺構検出状況と土層断面（南東から）……80
写真147　00909調査２トレンチ西端部Ⅳ層上面検出状況（南西から）……80
写真148　00909調査３トレンチ全景（南東から）…80
写真149　00909調査３トレンチ西壁土層断面（南東から）……80
写真150　00909調査３トレンチ南端西壁土層……80
写真151　00909調査３トレンチ北端部西壁土層（南から）……80
写真152　00909調査４トレンチ位置（北東から）……82
写真153　00909調査４トレンチ土層断面（南東から）……82
写真154　00909調査５トレンチ位置（北東から）……82
写真155　00909調査５トレンチ土層断面（南東から）……82
写真156　00909調査５トレンチ北半部土層断面（南東から）……82
写真157　00909調査６トレンチ位置（東から）……82
写真158　00909調査６トレンチ全景（東から）……82
写真159　00909調査６トレンチ北壁土層断面（南東から）……83
写真160　00909調査７トレンチ位置（南から）……83
写真161　00909調査７トレンチ西壁土層断面（南東から）……83
写真162　00909調査７トレンチ全景（南から）……83
写真163　00909調査７トレンチ北半部西壁土層（南東から）……83
写真164　00909調査８トレンチ位置（西から）……84
写真165　00909調査８トレンチ全景（北西から）…84
写真166　00909調査９トレンチ位置（南東から）…84
写真167　00909調査９トレンチ西壁土層（北東から）……84
写真168　00909調査９トレンチ全景（南から）……84
写真169　00909調査９トレンチ北半～中央部遺構検出状況……84
写真170　00910調査調査区遠景（北から）……88
写真171　00910調査完掘状況（南から）……88
写真172　00911調査Ⅰ区完掘状況（北から）……93
写真173　00911調査Ⅰ区北端部完掘状況（東から）……93
写真174　00911調査Ⅱ区西半部完掘状況（北東から）……93
写真175　00911調査Ⅱ区東半部完掘状況（西から）……93
写真176　00911調査Ⅱ区中央桝部北壁土層（南から）……93
写真177　00911調査Ⅱ区西端桝部西壁土層（東から）……93
写真178　00911調査Ⅲ区完掘状況（南から）……94
写真179　00911調査Ⅳ-１区完掘状況（北から）……94
写真180　00911調査Ⅲ区北端完掘状況（南から）…94
写真181　00911調査SD-４完掘状況（南東から）…94
写真182　00911調査SD-３完掘状況（東から）……94
写真183　00911調査Ⅳ-２区完掘状況（南西から）……94
写真184　00911調査Ⅴ区完掘状況（東から）…… 101
写真185　00911調査Ⅵ区完掘状況（西から）…… 101
写真186　00911調査Ⅶ区北端部完掘状況（北から）…… 101
写真187　00911調査Ⅶ区南端部完掘状況（西から）…… 101
写真188　00911調査Ⅶ区管路部分完掘状況（南西から）…… 101

写真189　00911調査Ⅶ区管路部分完掘状況（北西から）…… 101
写真190　00911調査Ⅷ区北部完掘状況（西から）…… 101
写真191　00911調査Ⅷ区南部完掘状況（北東から）…… 101
写真192　00911調査Ⅸ区完掘状況（北西から）… 102
写真193　00911調査Ⅸ区完掘状況（北西から）… 102
写真194　00911調査Ｘ区西側管路部分土器集中地点（東から）…… 102
写真195　00911調査Ｘ区東側断割部土層（北西から）…… 102
写真196　00911調査Ｘ区西側断割部土層（北西から）…… 102
写真197　00911調査Ｘ・ＸＩ区完掘状況（西から）…… 102
写真198　00911調査ＸＩ区西端部完掘状況（北西から）…… 102
写真199　00911調査第３工区完掘状況（東から）…… 102
写真200　00912調査調査区遠景（北西から）…… 104
写真201　00912調査調査区全景（西から）…… 104
写真202　00912調査調査区全景（南から）…… 104
写真203　00912調査調査区北東部（西から）…… 104
写真204　00913調査Ａ区完掘状況（北東から）… 105
写真205　00913調査Ｂ区完掘状況（南西から）… 105

表　目　次

表１　2009年度の埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の体制…… 1
表２　2009年度埋蔵文化財調査依頼・照会一覧……4・5
表３　2009年度発掘調査一覧…… 8
表４　2009年度調査室・調査室資料利用一覧…… 8
表５　御幸遺跡１次調査の区割りと調査期間……48

資料目次

資料１　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程…… 2
資料２　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項…… 2

Ⅰ　2009年度の埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業

1　埋蔵文化財調査委員会

埋蔵文化財調査室は、「国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規定」（資料１）に基づき設置された埋蔵文化財調査委員会の下、業務運営を行っている。2009年度の埋蔵文化財調査委員会の体制は表１の通りである。

2009年度の埋蔵文化財調査委員会は、2009年12月２日（第1回）と2010年３月23日（第２回）に開催された。

（1）第１回埋蔵文化財調査委員会

2009年10月中旬まで、文京遺跡39・40次発掘調査を実施していたこともあり、2009年度第１回埋蔵文化財調査委員会は、例年より約半年遅れの2009年12月の開催となった。第１回埋蔵文化財調査委員会では、2008年度事業報告、2009年度事業報告、愛媛大学所有地における埋蔵文化財分布状況の見直しについて審議された。

まず、2008年度実施事業報告および会計報告が田崎室長によって行われた。以上の報告を受けて審議が行われ、2008年度実施事業・会計報告が了承された。さらに、田崎室長から2009年度上半期における事業の実施状況の報告が行われ、当初の計画になかった御幸遺跡の発掘調査への対応などにより、報告書刊行計画の変更および予算執行状況について報告があり、審議の結果、了承された。

つづいて、愛媛大学所有地における埋蔵文化財分布状況の見直しについて審議を行った。田崎室長から、愛媛大学各団地構内における埋蔵文化財の把握状況について説明が行われた。さらに、文化財保護法では、新たに遺跡を発見した際には、愛媛県教育委員会ならびに松山市教育委員会への届けが必要とされているが、愛媛大学ではこれらの処置を講じておらず、今回、愛媛大学埋蔵文化財調査室の発掘調査等のデータに基づき、「周知の埋蔵文化財包蔵地」範囲を見直すため、県教育委員会および市教育委員会へ提出すべきであるとの報告があった。審議の結果、了承された。なお、本件については、役員会に諮り正式決定することとなった。

（2）第２回埋蔵文化財調査委員会

第２回埋蔵文化財調査委員会では、2010年度事業計画、2010年度予算、その他の議題について報告・審議された。

まず、田崎室長から2010年度事業計画、2010年度予算について報告があり、審議の結果、原案通り了承された。

表１　2009年度の埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の体制

埋蔵文化財調査委員会			
	所属・役職	氏　名	備　考
委員長	理事（総務担当）	亀井　崇	
委　員	法文学部長	西村隆誉志	
委　員	法文学部教授	田崎　博之	埋蔵文化財調査室長
委　員	法文学部教授	松原　弘宣	
委　員	教育学部長	壽　卓三	
委　員	教育学部教授	川岡　勉	
委　員	理学部長	佐藤　成一	
委　員	医学部長	大西　丘倫	
委　員	工学部長	井出　敞	
委　員	農学部長	泉　英二	
委　員	経営企画部長	板橋　俊夫	
委　員	財務部長	山村　滋	
委　員	施設基盤部長	岡信　孝則	

埋蔵文化財調査室		
	氏　名	所　属
室　長	田崎　博之	法文学部教授
調　査　員	吉田　広	ミュージアム准教授
調　査　員	三吉　秀充	法文学部助教
専　門　員	松原　弘宣	法文学部教授
専　門　員	村上　恭通	東アジア古代鉄文化研究センター教授
専　門　員	川岡　勉	教育学部教授
教務補佐員	宮崎　直栄	施設基盤部企画課
事務補佐員	濱田　美加	施設基盤部企画課
技能補佐員	井手野文江	施設基盤部企画課
技能補佐員	門田　都	施設基盤部企画課

資料１　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程

（設置）
第１条　国立大学法人愛媛大学（以下「法人」という。）に，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会(以下「委員会」という。)を置く。
（任務）
第２条　委員会は，文化財保護法（昭和25年法律第214号）に基づき，法人の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議する。
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 学長が指名する理事，副学長又は学長特別補佐１人
(2) 各学部長
(3) 発掘調査に関連のある専門分野の教員若干人
(4) 経営企画部長，財務部長及び施設基盤部長
２　前項第３号の委員は，学長が任命する。
３　第１項第３号の委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要があると認めるときは，委員以外の者を出席させ，説明又は意見を聴くことができる。
（調査室）
第６条　委員会に，委員会が定める基本方針に基づき発掘調査を実施し，その結果について報告書を作成するため，埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。
２　調査室に関する要項は，委員会の議を経て，別に定める。
（事務）
第７条　委員会に関する事務は，施設基盤部施設企画課において処理する。
（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が定める。

附則　この規程は，平成21年４月１日から施行する。

資料２　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項

第１　この要項は，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程第６条第２項の規定に基づき，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）に関し，必要な事項を定めるものとする。
第２　調査室は，国立大学法人愛媛大学（以下「本学」という。）の敷地内の施設整備に伴う埋蔵文化財の調査研究に関する次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 実施計画の立案及び実施に関すること。
(2) 遺物の整理及び保管に関すること。
(3) 報告書の作成に関すること。
(4) 出土埋蔵文化財及び調査成果の公開及び利活用に関すること。
(5) 本学の学生及び教員への実践的な教育及び研究の支援に関すること。
(6) その他必要な事項
第３　調査室に，室長，調査員その他所要の職員を置く。
第４　調査室に，必要に応じて，埋蔵文化財の調査研究に関し，それぞれの専門分野から特別な知識及び技術について協力及び助言を得るため，専門員を置くことができる。
第５　室長，調査員及び専門員は，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）の議を経て，学長が任命する。
第６　室長，調査員及び専門員の任期は，委員会の議を経て，学長が定める。
第７　室長は，調査室に関する業務を掌理する。
２　調査員は，室長の指示の下，埋蔵文化財の調査研究に関する業務を行う。
第８　調査室に関する事務は，施設部において処理する。
第９　この要項に定めるもののほか，調査室の運営に関し必要な事項は，委員会が定める。
附則　この要項は，平成16年８月４日から施行する。

つづいて、その他の議題として、愛媛大学所有地を周知の埋蔵文化財包蔵地として取り扱うための資料提供について審議を行った。田崎室長より、松山市教育委員会からの依頼に基づいて、本学で遺跡包蔵地カードを作成し、情報提供する予定であるとの報告があり、審議の結果、了承された。本委員会の結果を次回役員会に報告し、役員会において諮ることとなった。なお、遺跡包蔵地カード作成団地は、樋又地区、持田地区、樽味団地、山越団地、御幸団地、東長戸団地および北吉井団地である。

2009年度末で任期が終了する田崎委員について、来期も委員として推薦することで了承された。

2　埋蔵文化財調査室の事業

埋蔵文化財調査室は、埋蔵文化財調査委員会の下、「国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室要項」（資料２）に従い、発掘調査の実施計画の立案および実施、出土資料の整理・保管、報告書の作成と調査成果の公開･利活用、本学における教育･研究の支援業務を行っている。

2009年４月１日付けで吉田広調査員（愛媛大学法文学部・准教授）が、愛媛大学ミュージアム（2009年11月オープン）の専任教員として配置転換となり、2009年度の埋蔵文化財調査室の体制は、表１のようになった。なお、吉田調査員は、兼任調査員として、これまで実施した発掘調査の報告書作成業務を担当することとなった。以下、2009年度の事業について報告する。

（1）発掘調査

埋蔵文化財調査室では、愛媛大学構内における地盤掘削を伴う諸工事に際して、規模の大小に関わらず、工事内容による埋蔵文化財への影響を周辺における既往の調査などから判断し、それに応じた対応を行っている。2004年度、国立大学法人愛媛大学発足以降、愛媛県教育委員会・松山市教育委員会と協議を重ね、2007年度から、周知の埋蔵文化財包蔵地においては、文化財保護法第63条に基づき、規模の大小にかかわらず、工事着手の60日前までに、土木工事等届出書を提出している。この土木工事届に対する通知に基づき発掘調査・工事立会等の対応を行っている。

2009年度は、大学構内における新営工事や環境整備工事が軒並み増加し、それに伴って掘削工事を伴った工事件数も大幅に増加した。埋蔵文化財に対する影響への確認と調査依頼は、2008年度の27件に対して、2009年度は52件と２倍近くの依頼あるいは照会があった（表２）。試掘調査や周辺における既往の調査成果から埋蔵文化財への影響を判断し、土木工事届等の所要の手続きを経た上で、12件について発掘調査を行った（表３）。団地別では、城北団地で８件、樽味団地で２件、持田団地で１件、御幸団地で１件である（図１～４）。調査種別では、試掘調査２件、立会調査３件、全面調査８件、工事立会15件である。確認調査は実施しなかった。

2009年度は、全面調査が８件となった。調査件数もさることながら、工事工期の都合から、７月～９月に文京遺跡39次調査、40次調査、御幸遺跡１次調査の計３現場を同時で進行することとなり、田崎室長、三吉調査員の２名だけでは対応できない状況となった。そこで、学長から愛媛大学ミュージアムの吉田准教授（埋蔵文化財調査室調査員兼任）に、文京遺跡40次調査の発掘調査を依頼することとなった。これは施設基盤部と埋蔵文化財調査室との間における、調査計画の調整不足に起因するものである。「地域にあって輝く大学」をめざしている愛媛大学としては、構内の地下に眠る埋蔵文化財を国民の共有財産として再認識した上で、長期的な展望を含めた対応が求められるところである。

（2）整理作業

報告書刊行に向けた整理作業として、文京遺跡34次調査、37次調査、39次調査、御幸遺跡１次調査出土遺物の遺物洗浄・注記作業を実施した。さらに文京遺跡36次調査、37次調査出土で採集した土壌の水洗作業、水洗した土壌から微細遺物の選別作業を実施した。また、『樽味遺跡Ⅴ』報告書作成に向けた出土遺物の写真撮影を実施した。

表２　2009年度の埋蔵文化財調査依頼・照会一覧

依頼			対応					
日付	発	工事名	意見書		土木工事	調査		
2/18	施設基盤部長	（城北団地）工学部建設材料試験棟改修工事	2/19	周辺の既往調査から埋蔵文化財に影響が及ぶと判断。	2/20	本格調査（文京遺跡38次調査）	4/2～4/15	－
4/30	施設基盤部長	（城北団地）法文学部本館104接地修繕工事	4/30	既掘管路の再掘削であり埋蔵文化財に影響が及ばないと判断。	－	工事立会	5/11	写真1
4/28	施設基盤部長	（城北団地）総合実験実習棟（工学系）新営その他工事	4/30	周辺の既往調査から埋蔵文化財に影響が及ぶと判断。	5/7	本格調査（文京遺跡39次調査）	7/6～10/16	－
4/28	施設基盤部長	（城北団地）60周年記念建物新営その他工事	5/7	周辺の既往調査から埋蔵文化財に影響が及ぶと判断。	5/11 7/13	本格調査（文京遺跡40次調査）	7/13～10/19	－
5/2	施設基盤部長	（城北団地）プール送水管修繕工事	5/2	既設管路の再掘削であり埋蔵文化財に影響が及ばないと判断。	－	工事立会	5/1・2	写真2
5/27	施設基盤部長	（御幸団地）学生寄宿舎新営その他工事	6/3	周辺の既往調査から埋蔵文化財に影響が及ぶと判断。	6/5	本格調査（御幸遺跡１次調査）	7/17～2011/2/9	－
5/29	施設基盤部長	（城北団地）共通教育管理棟周辺環境整備工事	6/9	周辺の既往調査から埋蔵文化財に影響が及ぶと判断。	6/15	－	－	－
5/29	施設基盤部長	（城北団地）課外活動施設新営その他工事	－	－	－	－	－	－
6/8	工学部長	（城北団地）工学部建設材料試験棟砕石置場取設工事	6/10	周辺の既往調査から埋蔵文化財に影響が及ばないと判断。	6/15	工事立会	7/7	写真3
8/6	施設基盤部長	（城北団地）総合実験実習棟（工学系）新営その他機械設備工事	8/10	既設共同溝の再掘削であり埋蔵文化財に影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
8/7	施設基盤部長	（城北団地）教育学部２号館足洗い場排水管修繕工事	8/17	既設排水管の再掘削であり埋蔵文化財に影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
8/28	施設基盤部長	（城北団地）理学部構内環境整備工事	9/8	周辺の既往調査から埋蔵文化財に影響が及ぶと判断。	9/16	本格調査（文京遺跡41次調査）	11/19～3/5	－
12/9	施設基盤部長	（城北団地）理学部構内外灯設備工事	12/10					
10/2	池田水道工業（株）	（樽味団地）市道桑原82号線道路改良工事に伴う上水道引込管・電柱・ガス引込管移設工事	－	－	－	立会調査（調査番号：00906）	3/15～19	－
10/6	施設基盤部長	（樽味団地）総合研究棟（Ⅲ期）耐震改修電気設備工事	10/7	既設排水管あるいは既設ハンドホールの再掘削であり埋蔵文化財に影響が及ばないと判断。	－	工事立会	10/21	写真4
10/7	施設基盤部長	（樽味団地）総合研究棟（Ⅲ期）耐震改修電気設備工事	10/8	建物内余掘範囲内であり埋蔵文化財に影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
10/7	施設基盤部長	（城北団地）愛大ミューズ周辺側溝蓋等取設工事	10/8	周辺の既往調査から埋蔵文化財に影響が及ばないと判断。	10/19	工事立会	12/2	写真5
10/5	施設基盤部長	（城北団地）総合実験実習棟（工学系）新営その他工事	10/7	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	工事立会	3/15～19	写真6
10/15	施設基盤部長	（城北団地）総合実験実習棟（工学系）新営その他機械設備工事	10/20	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	10/22	工事立会	12/17	写真7
10/19	施設基盤部長	（樽味団地）総合研究棟（Ⅲ期）耐震改修機械設備工事	10/19	既設雨水桝部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	工事立会	10/21	写真8
10/21	施設基盤部長	（城北団地）60周年記念会館（仮称）新営その他工事	12/4	周辺の既往調査から埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	12/9	本格調査（文京遺跡42次調査）	1/25～3/12	－
10/22	施設基盤部長	（樽味団地）総合研究棟（Ⅲ期）耐震改修工事	10/28	建物余掘範囲内ならびに既設管路掘削範囲に含まれ埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	11/10	慎重工事	－	－
11/16	施設基盤部長	（城北団地）理学部構内引込柱接地修繕工事	11/18	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
11/17	施設基盤部長	（城北団地）工学部外溝インターロッキングその他修繕工事	11/18	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
11/17	施設基盤部長	（城北団地）理学構内環境整備工事に伴う散水配管設備工事	11/19	既設管路等の再掘削であり埋蔵文化財に影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
11/19	施設基盤部長	（城北団地）60周年記念会館（仮称）新営その他機械設備工事	11/24	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
11/26	施設基盤部長	（城北団地）60周年記念会館（仮称）新営その他工事	11/27	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	工事立会	12/4・5	写真9

依頼			対応					
日付	発	工事名	意見書		土木工事	調査		
11/27	施設基盤部長	（城北団地）理学部構内外灯設備工事	11/30	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ぶと判断。	12/3	立会調査（調査番号00910）	1/21	－
12/1	農学部長	（樽味団地）植物工場他新営工事	3/15	試掘調査00909調査を実施して埋蔵文化財の残存状況について報告。	－	－	－	－
12/3	農学部長	（樽味団地）農学部守衛室排水管路改修工事	1/15	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	1/19	工事立会	3/11	写真10
12/3	農学部長	（樽味団地）起波機移設工事	1/15	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	1/19	工事立会	2/15	写真11
12/4	施設基盤部長	（城北団地）理学部構内埋設ガス配管修繕工事	12/4	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
12/17	施設基盤部長	（樽味団地）総合研究棟（Ⅲ期）耐震改修機械設備工事	12/18	既設コンクリートスロープ内における掘削工事であり埋蔵文化財への影響がないと判断。	－	慎重工事	－	－
12/17	施設基盤部長	（城北団地）60周年記念会館（仮称）新営その他電気設備工事	12/18	既設管路部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
12/18	施設基盤部長	（城北団地）理学部構内カーゲート取設工事	12/21	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ぶと判断。	12/25	本格調査（文京遺跡43次調査）	3/8～3/19	－
12/24	施設基盤部長	（城北団地）理学部構内ほか電灯設備修繕工事	12/25	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1/5	施設基盤部長	（樽味団地）附属高校体育館便所修理工事	1/6	既設管路部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1/5	施設基盤部長	（持田団地）給水設備改修工事	1/6	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	1/12	本格調査（持田団地構内遺跡３次調査）	2/13～2/15	－
1/7	施設基盤部長	（城北団地）60周年記念会館（仮称）新営その他機械設備工事	1/7	既設管路部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1/7	施設基盤部長	（持田団地）給水設備改修工事	1/8	既設管路部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1/15	施設基盤部長	（城北団地）記念講堂改修機械設備工事	1/15	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ぶと判断。	1/19	工事立会	2/5	－
1/18	施設基盤部長	（城北団地）60周年記念会館（仮称）新営その他工事	1/22	周辺の既往調査から、除根作業により埋蔵文化財への影響が及ぶと判断。	－	工事立会	2/4～2/8	写真190･191
1/20	施設基盤部長	（城北・樽味・持田団地）学内LAN光ケーブル設備工事	1/28	既設部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
2/3	施設基盤部長	（城北団地）駐輪場舗装改修工事	2/4	既設砕石路盤上面までの再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
2/3	施設基盤部長	（城北団地）課外活動第３共用施設改修機械設備工事	2/4	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	2/10	工事立会	3/16	写真12
2/3	施設基盤部長	（持田団地）構内舗装改修工事	2/4	既設砕石路盤上面までの再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
2/5	施設基盤部長	（樽味団地）学内LAN光ケーブル設備工事	2/10	樽味遺跡６次調査地内の再掘削工事であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
2/9	施設基盤部長	（城北団地）総合実験実習棟（工学系）新営その他電気設備工事	2/10	既設部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
2/22	施設基盤部長	（城北団地）課外活動第３共用施設改修電気設備工事	2/24	既設ハンドホール部分の再掘削工事であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
2/23	農学部長	（樽味団地）附属高校畜舎新築工事	3/15	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ぶと判断。	3/23	本格調査（樽味遺跡９次調査）	2010/10/13	－
2/24	施設基盤部長	（城北団地）60周年記念建物（仮称）新営その他工事（その２）	2/24	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	2/25	工事立会	3/8・3/15	写真13･14
3/4	施設基盤部長	（城北団地）共通教育管理棟中庭流し台及びテント取設工事	3/5	盛り土内における掘削工事であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－

写真１　（城北団地）法文学部本館104接地修繕工事立会

写真２　（城北団地）プール送水管修繕工事立会

写真３　（城北団地）工学部建設材料試験棟砕石置場取設工事立会

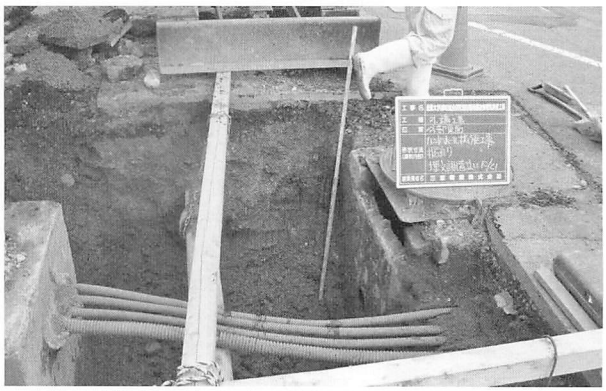


写真４（樽味団地）総合研究棟Ⅲ期耐震改修電気設備工事立会

写真５（城北団地）愛大ミューズ周辺側溝蓋等取設工事立会

写真６（城北団地）総合実験実習棟（工学系）新営その他工事立会

写真７（城北団地）総合実験実習棟（工学系）新営その他機械設備工事立会

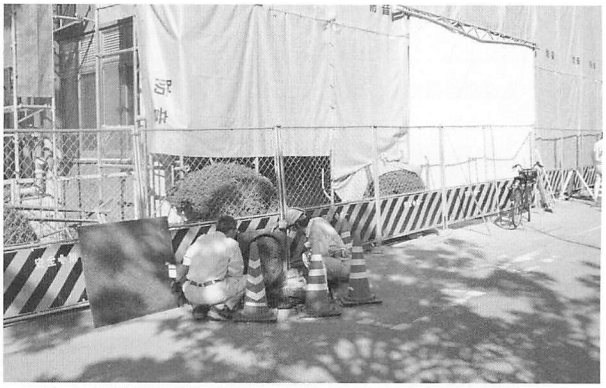


写真８（樽味団地）総合研究棟（Ⅲ期）耐震改修機械設備工事立会

写真９（城北団地）60周年記念会館（仮称）新営その他工事立会

写真10　（樽味団地）農学部守衛室排水管路改修工事立会

写真11　（樽味団地）起波機移設工事立会

写真12（城北団地）課外活動第３共用施設改修機械設備工事立会

写真13　（城北団地）60周年記念建物（仮称）新営その他工事（その２）立会

写真14　（城北団地）60周年記念建物（仮称）新営その他工事（その２）立会

（3）印刷物の刊行

2008年度に実施した全面調査の概要報告と小規模調査・立会調査などの報告をまとめた『埋蔵文化財調査室年報 —2008年度— 』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＸＩ）を刊行した。

また、2008年度に刊行した『文京遺跡Ⅵ－文京遺跡25次調査－』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告XX）を、全国の大学・研究機関、文化庁、教育委員会・埋蔵文化財センター、博物館・資料館等へ発送した。

表３　2009年度発掘調査一覧

調査番号	団地	遺跡	工　事　名	調査種別	調査担当	調査期間	調査面積	出土遺物
00901	城北	文京38次	（城北団地）工学部建設材料試験棟（旧工学部倉庫）改修工事	本格調査	田崎・三吉	4/2 ～ 4/15	37㎡	１箱
00902	城北	文京39次	（城北団地）総合実験実習棟新営その他工事	本格調査	三吉	7/6 ～ 10/16	742㎡	15箱
00903	城北	文京40次	（城北団地）60周年記念建物新営その他工事	本格調査	吉田・田崎	7/13 ～ 10/19	919㎡	27箱
00904	城北	文京	（城北団地）課外活動施設新営その他工事	試掘調査	田崎・三吉	6/9	16.5㎡	１箱
00905	御幸	御幸1次	（御幸団地）学生寄宿舎新営その他工事	本格調査	田崎	2009/7/14～2011/2/9	2,271㎡	54箱
00906	樽味	樽味	（樽味団地）市道桑原82号線道路改良工事に伴う上水道引込管・電柱・ガス管移設工事	立会調査	田崎・三吉	10/27・11/2	4.6㎡	１箱
00907	城北	文京41次	（城北団地）理学部構内環境整備工事	本格調査	三吉	11/19 ～ 3/5	788㎡	２箱
00909	樽味	樽味	（樽味団地）植物工場他新営工事	試掘調査	田崎	1/6 ～ 1/8	49.7㎡	１箱
00910	城北	文京	（城北団地）理学部構内外灯設備工事	立会調査	三吉	1/21・1/22	2.2㎡	１箱
00911	城北	文京42次	（城北団地）60周年記念会館（仮称）新営その他工事	本格調査	田崎・三吉	1/25 ～ 3/12	1,063.5㎡	５箱
00912	持田	持田3次	（持田団地）給水設備改修工事	本格調査	田崎	2/13 ～ 2/15	85.5㎡	無
00913	城北	文京43次	（城北団地）理学部構内カーゲート取設工事	本格調査	田崎	3/8 ～ 3/19	31㎡	無

※00908は欠番

表４　2009年度調査室・調査室資料利用一覧

	日　時	利　用　者	利　用　資　料	目　的	利用内容
1	４月６日	西条市教育委員会職員	埋蔵文化財調査室刊行図書	研究	文献希望
2	４月９日	鬼北町教育委員会職員	埋蔵文化財調査室刊行図書	研究	文献希望
3	４月14日	滋賀県立安土城考古博物館	文京遺跡12次調査出土土器ほか	展示	借用
4	４月27日	大阪市内在住考古学文献を読む会会員	埋蔵文化財調査室刊行図書	研究	文献希望
5	４月28日	松野町教育委員会職員	埋蔵文化財調査室刊行図書	研究	文献希望
6	４月28日	大洲市教育委員会職員	埋蔵文化財調査室刊行図書	研究	文献希望
7	５月25日	愛媛大学教育学部教員・学生17名	施設見学	教育	施設見学
8	７月８日	（財）日韓文化交流基金	施設見学	研究	施設見学
9	７月９日	愛媛新聞社記者・清水小学校教員・児童10名	文京遺跡39次調査見学・文京遺跡10・12・16次出土遺物ほか	報道	見学
10	８月25日	（株）同成社	『文京遺跡』Ⅴ掲載図版	書籍掲載	借用
11	８月26日	奈良県内埋蔵文化財職員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研究	文献閲覧・複写
12	10月１日	愛媛大学工学部教員	城北団地構内３級基準点データー	実習	データ使用
13	９月23日	松山市内個人	埋蔵文化財調査室刊行図書	研究	文献希望
14	10月９日	愛媛大学ミュージアム教員	文京遺跡10次・14次出土遺物	教育（教材）	借用
15	10月10日	愛媛大学主催公開講座受講生10名	文京遺跡出土遺物	研究	見学
16	10月29日	香川県埋蔵文化財センター	現地説明会資料	研究	文献希望
17	11月２日	熊本大学大学院生	文京遺跡10次調査出土鏡片写真	研究	掲載許可
18	11月19日	愛媛新聞社記者	御幸遺跡１次調査出土模擬弾	報道	見学
19	11月19日	NHK松山放送局記者	御幸遺跡１次調査出土模擬弾	報道	見学
20	11月19日	共同通信社記者	御幸遺跡１次調査出土模擬弾	報道	見学
21	11月19日	毎日新聞社記者	御幸遺跡１次調査出土模擬弾	報道	見学
22	11月27日	雄山閣出版	御幸遺跡１次調査発掘情報	書籍掲載	掲載許可
23	12月14日	愛媛大学ミュージアム教員	旧歴史学研究会保管資料	教育（教材）	借用
24	12月22日	愛媛大学法文学部大学院生	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研究	借用
25	12月24日	山口県立山口博物館学芸員	文京遺跡11次調査出土縄文土器	研究	見学
26	１月19日	愛媛県埋蔵文化財調査センター	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研究	借用
27	２月26日	西条市教育委員会職員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研究	文献複写
28	３月３日	佐賀県教育委員会職員	施設見学	その他	見学
29	３月８日	松山市考古館学芸員	文京遺跡調査写真	書籍掲載	借用
30	３月17日	愛媛大学法文学部教員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研究	文献複写

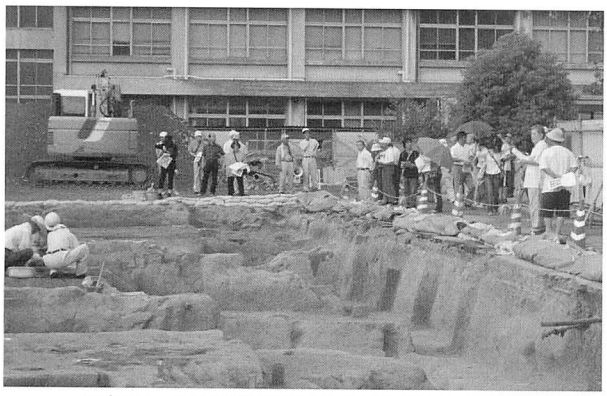


写真15　文京遺跡39次調査現地説明会の様子

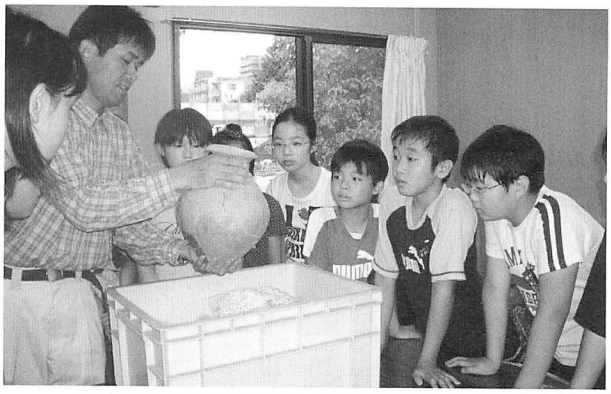


写真16　文京遺跡39次調査遺跡見学会の様子

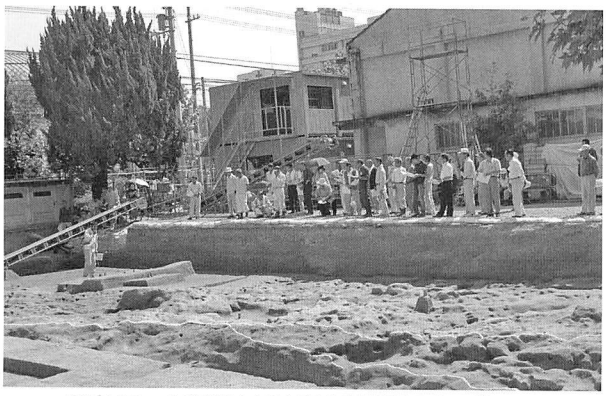


写真17　文京遺跡40次調査現地説明会の様子

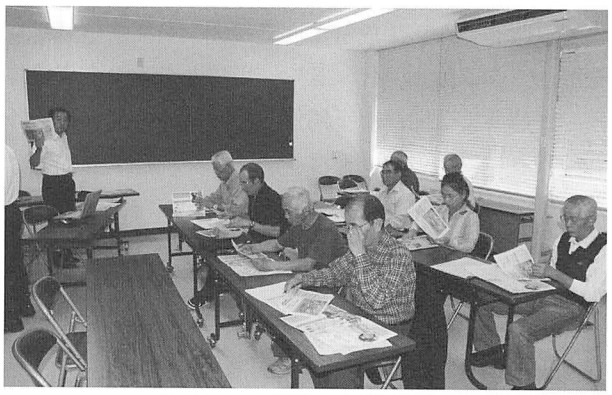


写真18　公開講座の様子（1）

写真19　公開講座の様子（2）

写真20　公開講座の様子（3）

（4）広報、資料等の利活用

埋蔵文化財調査室では、これまで実施してきた構内遺跡出土の遺物や調査に関するデータなどを保管している。これらの資料等に対しては、学内外から資料の公開や利用の要望が寄せられてきた。これらの要望に対して、埋蔵文化財調査室では広報パンフレットの配布やWebを利用した情報発信、公開講座の企画・実施などを通じて積極的に広報活動を進めている。

①埋蔵文化財調査室保管資料の活用状況

2009年度、埋蔵文化財調査室保管資料等に対する資料申請件数は30件であった。内訳は学内７件、学外23件である。2008年度以前に比べて総件数は減少傾向にある。これは2009年11月以降、愛媛大学ミュージアムにおいて、埋蔵文化財調査室保管資料の展示を行っていることも影響していると考えられる。ただ、愛媛大学ミュージアムに常設展示している資料点数は、埋蔵

文化財調査室保管総資料の１％にも満たないものであり、今後も、埋蔵文化財調査室保管資料に対する資料見学等の要望は続くと予想される。

②広報パンフレットの配布

埋蔵文化財調査室では、広報パンフレット『発掘愛媛大学』を作成し、希望者には随時配布している。また、2009年４月には、新入学生ならびに新規採用職員を対象として約2400部を配布した。

③公開講座の開催（写真18・19・20）

埋蔵文化財調査室では、平成17年度以降、文京遺跡出土資料を用いた公開講座を開催してきており、今年度もひきつづき、平成21年度愛媛大学公開講座『文京遺跡から学ぶ弥生時代（５）―環境からみた文京遺跡―』と題して公開講座を開催した。講座の開催日と各回の内容は以下の通りである。

第１回　10月３日（土）
　田崎博之「縄文時代のくらしと環境」
第２回　10月10日（土）
　三吉秀充「弥生時代の新たなくらし」
第３回　10月31日（土）
　佐々木正治（愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター）「東アジアにおける農耕の開始」
第４回　11月28日（土）
　吉田広「大集落の道程」
第５回　12月５日（土）
　田崎博之・吉田広・三吉秀充「討論」

講座では、「環境」をテーマに、愛媛大学城北キャンパス内の地下に眠る文京遺跡を始めとした構内遺跡の発掘調査成果や実際に出土した土器・石器・炭化種子といった実物資料を利用した公開講座を実施した。

年度末には、公開講座第５回の討論の内容や受講生アンケートの内容を収録した平成21年度愛媛大学公開講座記録集『文京遺跡から学ぶ弥生時代（５）』を刊行し、受講生ならびに関係各位･関係機関に配布した。

④現地説明会の開催（写真15・16・17）

埋蔵文化財調査室では、発掘調査実施期間中における発掘調査地の公開に努めており、一般市民を対象とした現地説明会などを開催している。

2009年度は、９月12日（土）に文京遺跡39次調査（参加者約50名）、９月25日（金）に文京遺跡40次調査の現地説明会（参加者約100名）を開催した。

また、地元新聞社の企画「小学生記者が行く」で、松山市立清水小学校児童10名が、取材の一環として文京遺跡39次調査の現地見学ならびに発掘調査体験を行った（愛媛新聞2009年８月15日掲載）。新聞社の企画によるものであり、記者の人数には制限が設けられていたため、参加した児童以外にも多数の希望者がいたとのことである。今後、こういった要望に応えていく必要がある。

⑤Webを利用した広報活動

埋蔵文化財調査室では、2004年度ホームページを開設し、情報発信を行っている。2009年度も発掘調査速報や公開講座情報などを随時更新した。

（愛媛大学埋蔵文化財調査室ホームページアドレス
　http://www.ehime-u.ac.jp/~maibun/index.htm）

⑥愛媛大学ミュージアム設置準備

埋蔵文化財調査室は、2009年11月オープンの愛媛大学ミュージアム「人間の営み」ゾーンにおいて、文京遺跡を中心とした構内遺跡出土資料を展示している。2008年からの継続事業として、2009年４月～10月、展示品の修復作業、資料カードの作成を行った。

（三吉）

図１　2009年度城北団地地点位置図（縮尺1／2000）

図２　2009年度樽味団地調査地点位置図（縮尺１／2000）

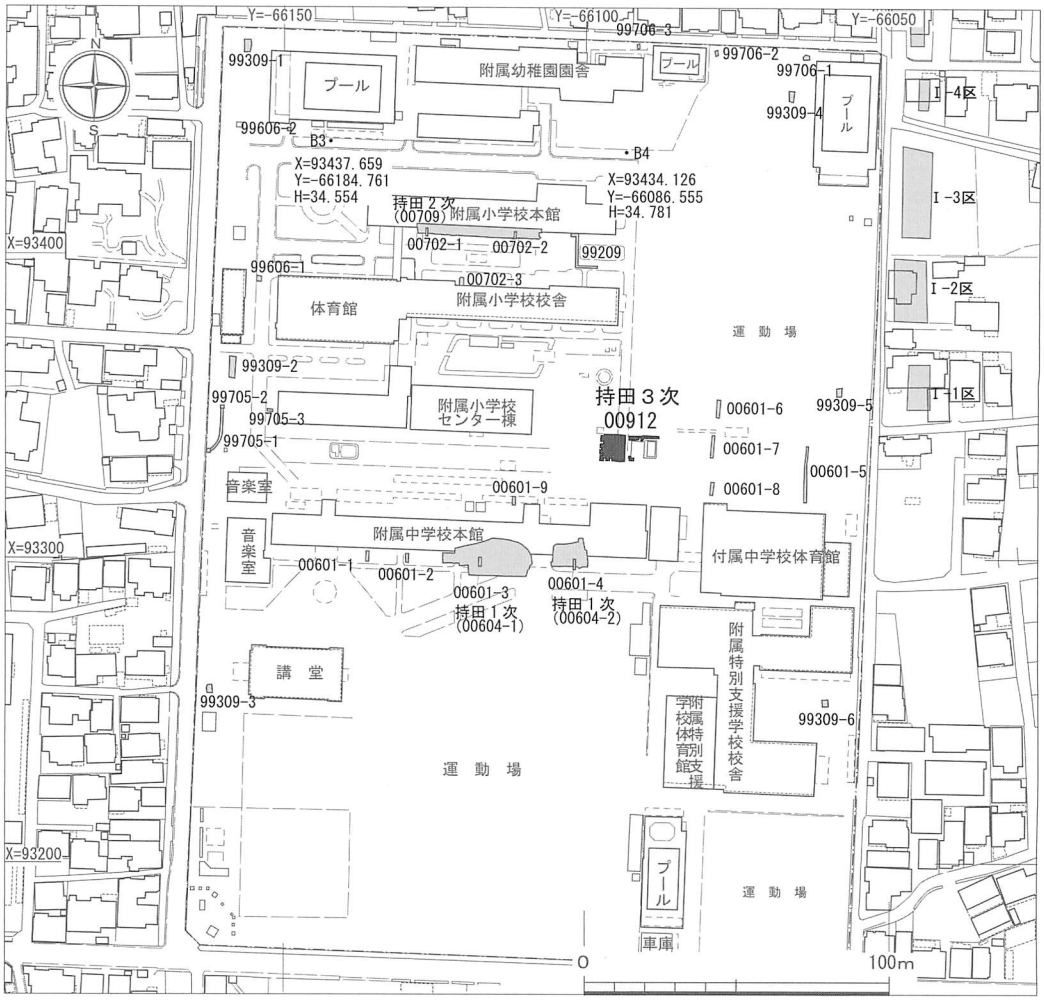


図３　2009年度持田団地調査地点位置図（縮尺1／2500）

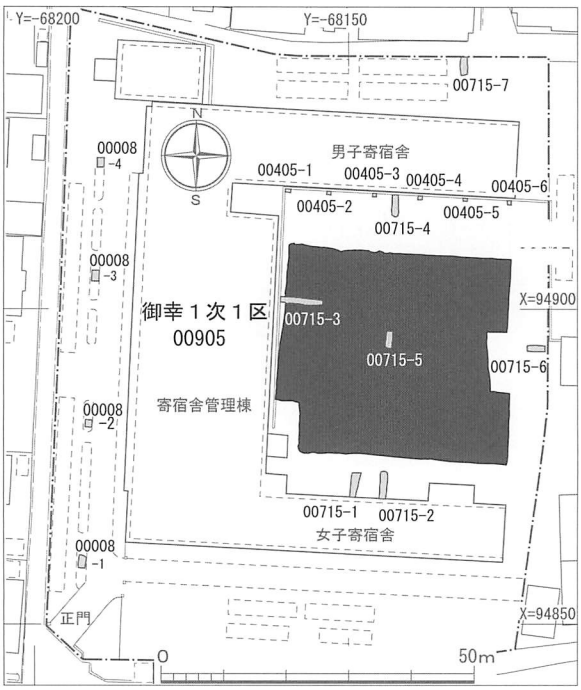


図４　2009年度御幸団地調査地点位置図（縮尺1／1200）

Ⅱ　2009年度の発掘調査

00901　（城北団地）工学部建設材料試験棟（旧工学部倉庫）改修工事に伴う調査（文京遺跡38次調査）

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地内
調査面積　37㎡
調査期間　2009年４月２日～2009年４月15日
調査の種別　本格調査
調査担当　三吉秀充・田崎博之
調査補助　宮崎直栄・濱田美加
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成21年１月26日付）

１　調査にいたる経緯

2009年１月、城北団地南西部に所在する工学部建設材料試験棟（旧工学部倉庫）改修工事が計画された。工事内容は、①ピット新設工事、②沈殿槽新設工事、③沈殿ピット新設工事、④上屋基礎新設工事、⑤側溝新設工事、⑥スロープ新設工事、⑦給排水管引込み新設工事、⑧電気引き込み新設工事である。

周辺における既往の調査で、弥生時代～古墳時代の遺構・遺物が出土していることから、工事に伴う掘削深度を浅くし、埋蔵文化財への影響をおさえるよう、埋蔵文化財調査室と施設基盤部とで協議を行った。しかし、建物内ピットや沈殿槽工事部分などに関しては、埋蔵文化財への影響が予想されたため、土木工事届出等の所要の手続きを行い、４月に本格調査を実施することとした。

２　調査の概要

（1）基本層序

今回の調査では、城北団地で設定している基本層序Ⅰ～Ⅳ層を確認した。各基本層序の特徴は、以下の通りである。

Ⅰ層は、表土層にあたる瓦礫を伴った表土層である。

Ⅱ層は、造成以前の灰色系の水田層で、下部には鉄分・マンガンの沈着する床土層がみられる。

Ⅲ層は、弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含する黒褐色～暗褐色系の土層である。

Ⅳ層は、縄文時代の遺構・遺物を包含する黄褐色系のシルト～砂質土層である。

（2）調査区割り

施設基盤部から提示された工事内容別の区割り図を基に、調査室で新たにⅠ～Ⅷ区の８区にわけて調査を進めた。調査の記録は、城北団地内に設置されている平面直角座標系基準点データを基に、各調査区の状況に応じて平板測量・遣り方測量を併行して用いた。

（3）調査の概要

〔Ⅰ区〕（図５、写真22）

Ⅰ区は、建物内北西部、建物内ピット設置に伴う工事地点で、現地表下1.3mまでの掘削工事である。調査計画段階に施設基盤部より提供されたデータ（以下、「施設基盤部データ」）によれば、Ⅰ区中央部に関しては、建物建設時の掘り返しが及ばないことが予想された。しかし、重機を用いて慎重に掘り下げを行った所、Ⅰ区全体が、建物建設時に掘り返されていることを確認できた。掘削深度1.3mまで基本層序Ⅰ層が続くことを確認して、調査を終了した。排土中ではあるが弥生時代後期後葉の高坏部片などが出土している。

〔Ⅱ区〕（図５・６、写真23～28）

Ⅱ区は、沈殿槽設置工事部分にあたる。建物北側の東西２地点に設置した調査区である。西側を西区、東側を東区とした。なお東区には、沈殿槽につながる給排水管に伴う掘削工事部分を含んでいる。

施設基盤部データでは、建物建設時の掘削が及ばず、遺跡が残存する可能性が高いことから調査を行った。西区・東区ともに調査区内の大半は建物建設時の掘り返しにより、すでに遺跡が破壊されていた。調査区北壁ならびに北壁に接した南北10～30cm幅にかろうじて遺跡が残存している状況であった。以下、西区、東区の順に調査の概要を述べていく。

西区は、南北1.35m、東西4.5mの調査区である。工事に伴う掘削深度は、現地表下1.4mまでである。重

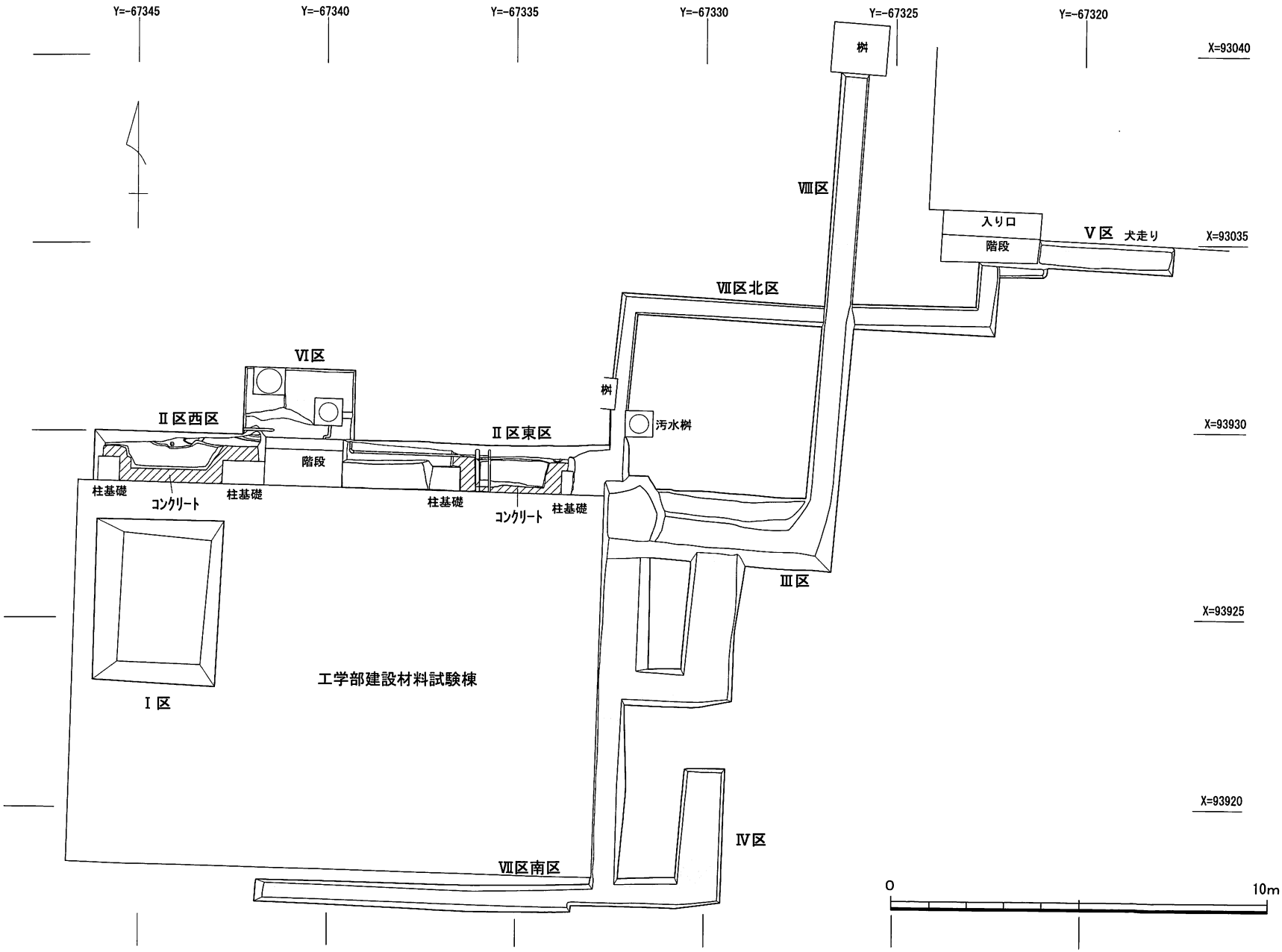
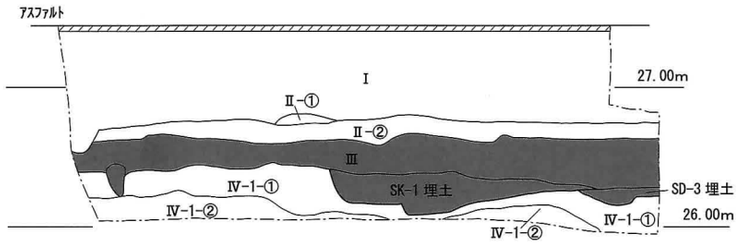
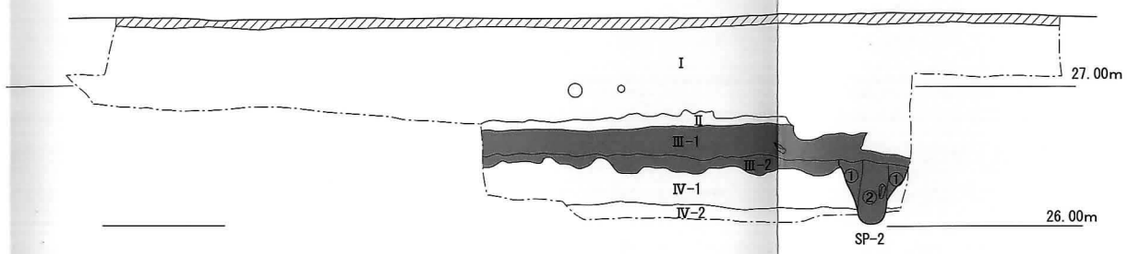


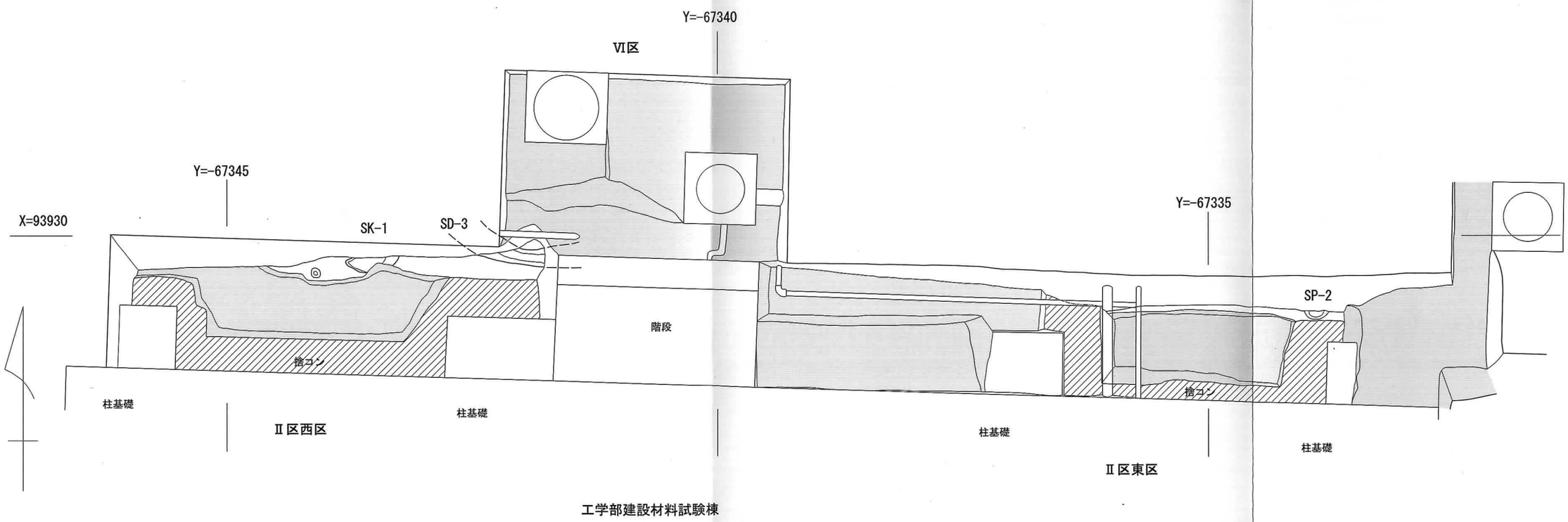
図５　00901調査全体図（縮尺1／150）

Ⅱ区西区北壁土層断面



Ⅱ区東区北壁土層断面





0　5m

図6　00901調査Ⅱ区・Ⅵ区平面図・土層断面図（縮尺1／50）

写真21　00901調査表土層掘り下げ作業の様子

写真22　00901調査Ⅰ区完掘状況（南から）

写真23　00901調査Ⅱ区西区遺構検出状況（東から）

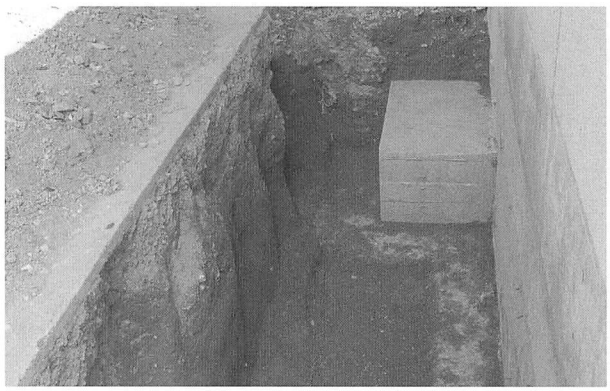


写真24　00901調査Ⅱ区西区東部遺構検出状況（西から）

写真25　00901調査Ⅱ区西区東部完掘状況（南西から）

機を用いて、現地表下約1.3mまで表土層を掘り下げたところ、調査区北壁ならびに北壁に接した南北10～30cm幅にかろうじて遺跡が残っていることを確認した。人力による作業に切り替えて、Ⅳ-1層中部で遺構精査作業を行い、Ⅳ層上面から掘り込む土壙SK-1が出土した。

SK-1は、南側を建物建築時の掘り返しによって、すでに破壊されている。当初、１基の土壙SK-1として掘り進めたが、東部では、溝状にⅣ層が大きく掘り込まれている部分もあることから、完掘後、東部の遺構を溝SD-３として分離した。

SK-1は、北壁土層で精査を行った結果、残存長1.9m以上の土壙と確認できた。埋土は、灰褐色砂質土を主体とし、層下部に明黄褐色砂質土のレンズ状ブロックを多く含んでいる。埋土中から弥生土器の壺・甕胴部片が多数出土している。

SD-3は、幅約15cmで東西方向にのびる溝状遺構である。埋土は灰褐色砂質土で、明黄褐色砂質土の不定形ブロックを多く含んでいる。

東区は、南北1.25m、東西６mの調査区である。工

写真26　00901調査Ⅱ区東区遺構検出状況（東から）

写真27　00901調査Ⅱ区東区完掘状況（南西から）

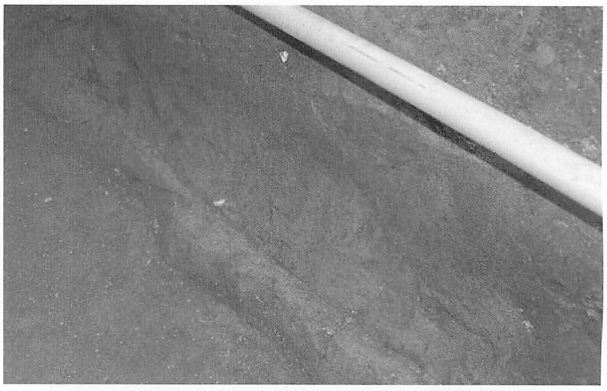


写真28　00901調査Ⅱ区東区北壁土層

写真29　00901調査Ⅲ区・Ⅳ区完掘状況（北から）

写真30　00901調査Ⅵ区完掘状況（東から）

事に伴う掘削深度は、現地表下1.4mまでである。重機を用いて、現地表下約1.3mまで表土層を掘り下げたところ、調査区北壁、北壁に接した南北約10cm幅にかろうじてⅣ-１層下部以下が残っていることを確認した。人力による作業に切り替えて、遺構精査作業を行い、Ⅳ-１層下部で柱穴SP-２を検出した。

SP-２は、北壁に沿って柱下部を検出した。北壁土層の観察によれば、Ⅲ-２層から掘り込んでいる。Ⅲ-２層上面における柱穴の直径は、約50cmを測り、柱穴中央部で径19～20cmの柱痕跡が出土している。

柱痕跡内からは径約10cm、厚さ２～５cmの砂岩円礫１点や弥生土器の甕胴部上部片や小土器片が少量出土している。

〔Ⅲ区〕（図５、写真29）

Ⅲ区は、建物東部に設けた調査区である。沈殿ピット工事部分は現地表下80cm、側溝工事部分は現地表下40cm、電気引き込み工事部分は現地表下50cm、上屋基礎工事部分は現地表下25cmまで重機を用いて慎重に掘り下げを行い、基本層序Ⅰ層が続いていることを確認して、Ⅲ区の調査を終了した。Ⅲ区とⅦ区南区の周辺

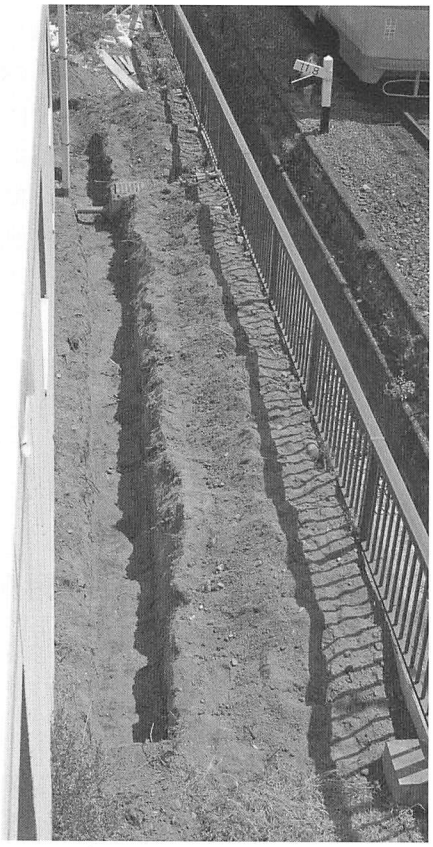


写真31　00901調査Ⅶ区南区完掘状況（西から）

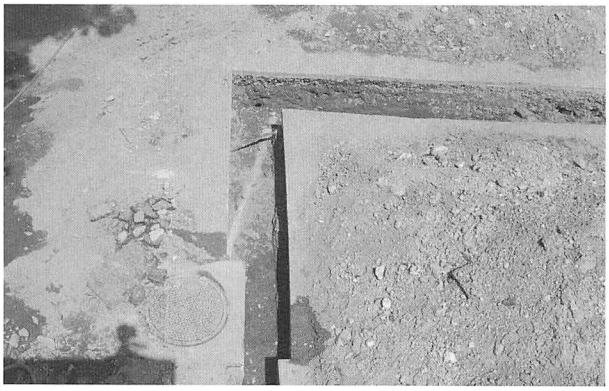


写真32　00901調査Ⅶ区北区完掘状況（南から）

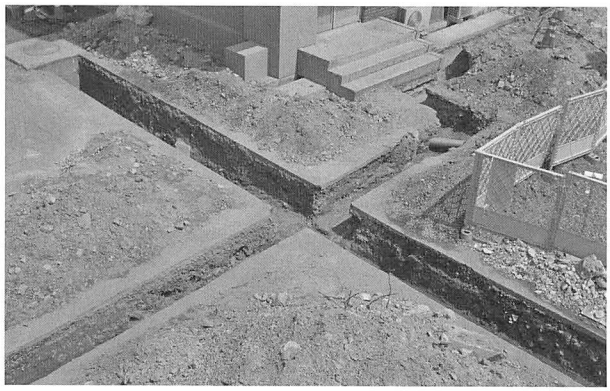


写真33　00901調査Ⅴ区・Ⅶ区・Ⅷ区完掘状況（南西から）

からⅠ層中ではあるが、弥生土器甕の底部片などが出土している。

〔Ⅳ区〕（図５、写真29）

Ⅳ区は、建物南東部に位置する上屋基礎部分である。南北3.5m、東西１mの調査区である。現地表下25cmまで重機を用いて掘り下げたところで、遺跡に影響がないことを確認して、調査を終了した。

〔Ⅴ区〕（図５、写真33）

Ⅴ区は、当初工事計画になかったが、Ⅶ区北側の給排水管設置部分のつなぎ部分として、工学部２号館南西部で急遽調査を行った調査区である。工学部２号館建物建設時の余掘部分に含まれることから、コンクリート土間から重機を用いて約30cm掘り下げ、基本層序Ⅰ層が続いていることを確認して、調査を終了した。

〔Ⅵ区〕（図５・６、写真30）

Ⅵ区は、建物北側のスロープ基礎ならびに給排水管設置に伴う調査区である。スロープ基礎部分は、現地表下25cmまで、給排水管設置工事部分は現地表下50cmまで掘り下げを行い、基本層序Ⅰ層が続いていることを確認して、調査を終了した。

〔Ⅶ区〕（図５、写真31・32）

Ⅶ区は、給排水管設置に伴う調査区で、建物の南部および南東部と北部との調査区からなる。幅70cmで、現地表下50cmまで重機による掘り下げを行い、基本層序Ⅰ層が続き、遺跡への影響がないことを確認して調査を終了した。

〔Ⅷ区〕（図５、写真33）

Ⅷ区は、電気工事引き込みに伴う再掘削部分である。重機で現地表下50cmまで掘り下げを行ったところ、基本層序Ⅰ層中から、弥生土器の壺の底部片や弥生後期の複合口縁壺片などが出土している。

３　まとめ

今回の調査は、小規模な調査ではあったが、文京遺跡南西部における弥生時代集落の様相を知る手がかりを得ることができた。

検出した遺構は、Ⅱ区西区で出土したSK-1、SD-３、Ⅱ区東区で出土したSP-2の３基である。埋土の特徴や出土遺物から、弥生時代中期後葉から後期段階の遺構と考えられる。確認できた遺構は以上の３基と数少な

いが、Ⅱ区北壁で確認できた基本層序Ⅲ層に注目してみると興味深い。Ⅲ層は、30～40cmの厚さで、弥生時代～古墳時代の遺物包含層としている。しかし、Ⅳ層上面には小さな凹凸が多数見られることなどから、単純な遺物包含層ではなく、遺構の埋土である可能性が高い。Ⅲ層から出土した遺物がないが、Ⅰ層から出土した遺物には、古墳時代まで下るものは少ないことから、Ⅲ層も弥生時代後期までの堆積と考えられる。Ⅱ区周辺には、当該期の遺構が広がっていた可能性が高い。今回の調査地点北東部で実施した文京遺跡１次調査では、弥生時代中期後葉～後期の竪穴式住居跡や土壙が出土しており、今回の調査では、文京遺跡１次調査で検出した集落がさらに南西部まで広がることを確認できたことになる。なお、Ⅲ・Ⅳ区では、埋蔵文化財の現地保存を行っており、今後掘削工事を行う際には、発掘調査が必要となる。（三吉）

00902 （城北団地）総合実験実習棟新営その他工事に伴う調査（文京遺跡39次調査）

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地内
調査面積　742㎡
調査期間　2009年７月６日～2009年10月16日
調査の種別　本格調査
調査担当　三吉秀充
調査補助　濱田美加
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成21年４月28日付）

１　調査にいたる経緯

2009年２月上旬、施設基盤部より2009年度の工事計画が提示された。その工事計画の中で、工学部２学科実習棟を解体した後、総合実験実習棟新営その他工事を実施する予定であるとの説明があった。工事予定地点の北側にある産業科学技術支援センター建物建設時に実施した文京遺跡27次調査では、縄文時代～近世の遺構が出土しており、当該工事地点にも同時代の遺跡が広がっていると予想された。ただし、工学部２学科実習棟建設の際に、破壊を受けていることも予想された。建設時の設計図面などを参考に、極力埋蔵文化財への影響が及ばないよう調査室と施設基盤部との間で協議したものの、やむを得ない地点に関して発掘調査を実施することとした。調査室は、約4.5ヶ月の調査期間が必要であるとしたが、解体工事への着手の遅れなどから、調査期間が不足し、８月には愛媛大学の計画年休期間、８月下旬以降、休日まで発掘調査を実施せざるを得ない状況となった。そのような中で、９月12日（土）に実施した現地説明会には、小雨模様の中、約50名の一般市民の参加があった。一般市民における文京遺跡に対する関心の高さを示すものである。また、調査期間中には、地元新聞社主催の清水小学校児童による遺跡見学会の実施など遺跡の情報公開ならびに地元住民への還元活動も積極的に行った。

２　調査の記録

（１）基本層序

今回の調査では、城北団地で設定している基本層序Ⅰ～Ⅳ層を確認した。各基本層序の特徴は、以下の通りである。

Ⅰ層は表土層である。

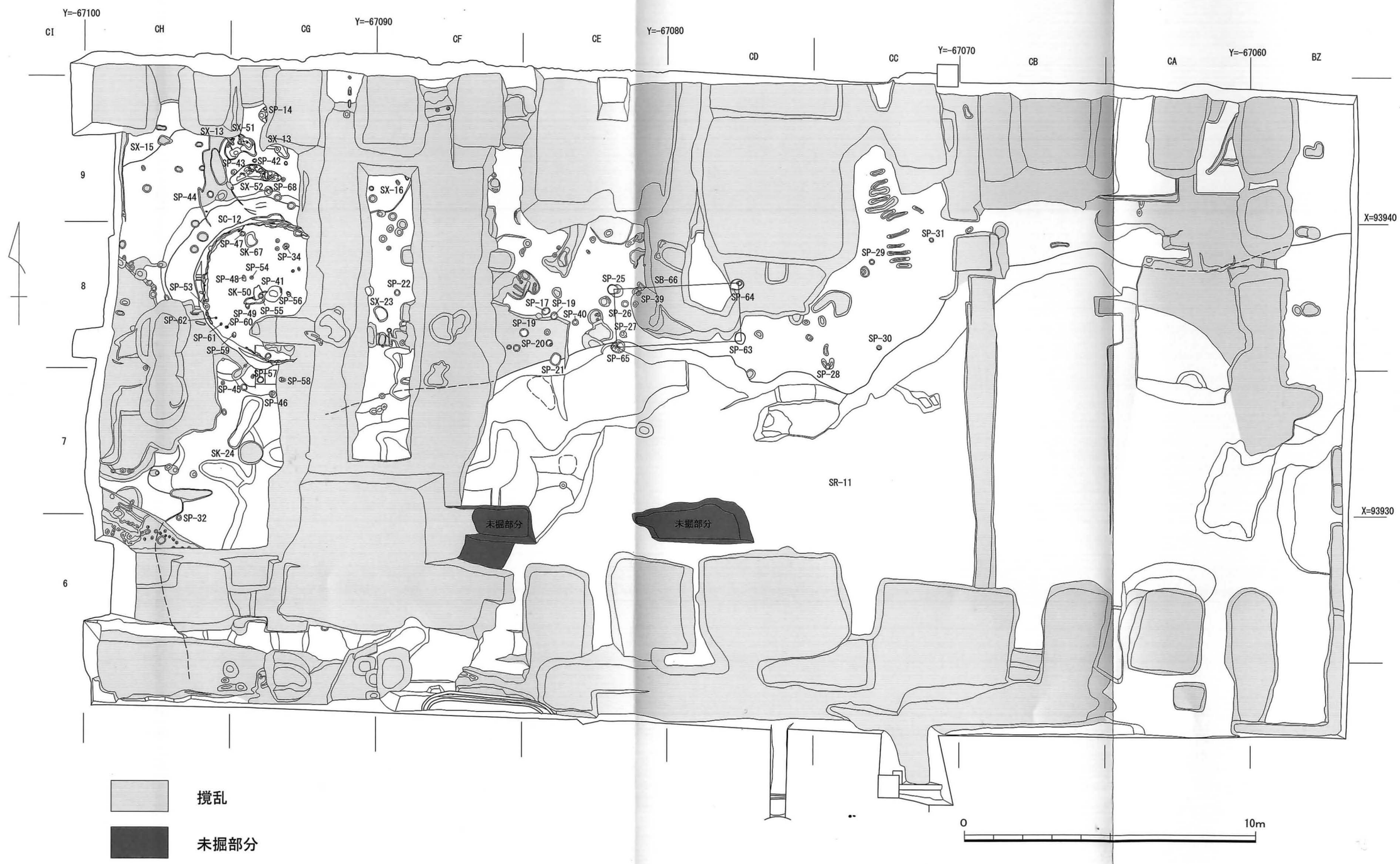
Ⅱ層は、造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。下部には鉄分･マンガンの沈着する床土層がみられる。

Ⅲ層は、弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含する黒色～暗褐色系の土層である。

Ⅳ層は、黄褐色系のシルト～砂質土層で縄文時代の遺構・遺物を包含する。Ⅳ層をⅣ-１層～Ⅳ-２層に細分している。Ⅳ-１層は、黄褐色シルトで遺物を含んでいる。Ⅳ-２層は、黄白色細砂層で、シルトが若干混じる。径１～２㎜の砂礫が混じる。遺物は含まない。

Ⅴ層は、Ⅳ層下の花崗岩を主体とする砂礫あるいは礫層である。

図7　00902調査Ⅰ区Ⅲ層上面検出遺構平面図（縮尺1／150）



撹乱

未掘部分

図８　00902調査Ⅰ区Ⅳ層上面検出遺構平面図（縮尺1／150）

図９　00902調査Ⅰ区Ⅳ層中遺物出土状況平面図・土層断面図（縮尺1／150）

写真34　00902調査Ⅰ区調査前の状況（西から）

写真35　00902調査Ⅰ区表土層除去状況（西から）

写真36　00902調査Ⅰ区SD-１・２・３・５完掘状況(西から)

写真37　00902調査Ⅰ区SD-４完掘状況（北東から）

写真38　00902調査Ⅰ区SD-４完掘状況（北西から）

写真39　00902調査Ⅰ区Ⅲ層上面検出遺構完掘状況(西から)

（2）調査の概要

調査区は本体部分（Ⅰ区）と管路部分（Ⅱ区）の２地点である。建設工事の予定により、まずⅠ区から着手し、10月５日に調査が終了した。Ⅱ区は、10月１日から重機掘削を開始し、配管等が多数出土したため、手掘り作業に切り替え、10月16日に終了した。

検出した遺構面は、Ⅲ層上面検出遺構、Ⅳ層上面検出遺構、Ⅳ層中検出遺構の計３面である。検出した遺構は次の通りである。

Ⅲ層上面検出遺構：SD-1 ～５

Ⅳ層上面検出遺構：SC-12、SB-66、SK-24・67、SR-11、SX-13・15・16・23・51・52、SP-14・25・33 ～ 35・37・41 ～ 46・49・50・53・55 ～ 65・68

Ⅳ層中検出遺構：SX-101

〔Ⅰ区〕

①Ⅲ層上面検出遺構（図７、写真36 ～ 39）

SD-1は調査区南西部ＣＨ６・７区で出土した南東から北西にのびる溝である。SD-2に平行してのびる。溝幅は1.5m以上で、深さは35cmである。埋土は暗褐色

写真40　00902調査Ⅰ区SC-12遺構検出状況（東から）

写真41　00902調査Ⅰ区SC-12遺物出土状況（東から）

写真42　00902調査Ⅰ区SC-12床面検出状況（東から）

写真43　00902調査Ⅰ区SC-12完掘状況（東から）

写真44　00902調査Ⅰ区SK-41炭化物出土状況（東から）

写真45　00902調査Ⅰ区SK-24完掘状況（東から）

写真46　00902調査Ⅰ区SB-66（東から）

砂質土で、砂礫・粗砂を多く含んでいる。弥生時代後期～終末期の土器が出土している。

SD-2は調査区南西部ＣＧ・ＣＨ６・７区で出土した南東から北西にのびる溝である。溝の底部分をかろうじて検出した。深さは６cmである。埋土は灰白色細砂層で径１～３cmの円礫を多く含む。弥生時代中期の土器が出土している。溝の配置からするとSD-３につづく可能性も考えられた。しかし、SD-２は周辺の地形からすると南東から北西に流れていたと考えられ、SD-２の溝底のレベルは、SD-３の溝底レベルより高くなってしまい、別の溝と考えられた。

SD-3は調査区南西部CG６区で出土した溝である。実習工場の基礎工事により破壊を受け、幅10～30cmの畦状部分でかろうじて検出した。当初SD-5と同一の溝と考えていたが、調査段階に分離した。溝幅は約１mで、深さ約23cmである。埋土は灰白色粗砂層である。弥生時代後期の遺物が出土している。

SD-4は調査区南東部BZ～CB６・７区で出土した溝である。埋土上層は黒褐色シルト・黒褐色砂礫層、中層以下は灰白色砂礫・粗砂・細砂層である。幅約９mで北東から南西方向へのびる。深さは最大で約25cmを測る。弥生時代中期後葉を中心とした土器片が出土している。

SD-5はCF・CG６区で出土した溝である。遺構検出では、SD-3と同一の溝と考えていたが、後に分離した。幅63cm、深さ７cmの溝である。埋土は灰白色砂質土で、弥生土器の小片・細片が出土している。

②Ⅳ層上面検出遺構（図８、写真40～49）

竪穴式住居跡

SC-12は、調査区の北西部、CG８・９、CH８区で出土した直径4.9mの円形竪穴式住居跡である。東側は実習工場の基礎掘削工事の際に攪乱を受けていた。当初、SC-12がSR-11を切り込んでいると考えていたが、SC-12埋土にSR-11の洪水砂が堆積しており、切り合い関係が逆転することを確認した。

SC-12の床面では柱穴・小穴であるSP-33～35・37・42～46・49・50・53・55～62と土壙SK-41・67が出土している。SK-41から灰に混じって長辺10cm、幅３cmの炭化物が出土している。明確な柱痕跡をもつ柱穴がないことから、住居の主柱穴は不明である。また、周壁に沿って矢板あるいは杭痕跡と考えられる窪みが続いていることを確認した。この周壁沿いの落ち込みの中で鉢が出土している。鉢は、弥生時代中期末から後期初頭に位置づけられることから、この段階に住居が廃棄されたと考えられる。住居跡の外側には幅50～70cmのテラス状の高まりがあり、周堤帯の可能性も考えられたが、詳細は不明である。

掘立柱建物

SB-66はSP-25・63～65からなる桁行4.4m、梁行２mの掘立柱建物である。SP-63～65では径15～18cmの柱痕跡あるいは柱の抜き取り痕跡が出土している。SP-65とSR-11とは切り合い関係にあるが、SR-11の遺構検出の際には確認できていないことから、SR-11に先行する時期の遺構と考えておく。

土壙

SK-24はCG７区で出土した長辺1.85m、幅40～70cmの長楕円形の土壙である。深さ18cmを測る。埋土は暗褐色砂質土である。SR-11埋土の掘り下げの際、SR-11底面で検出し、SR-11内の落ち込み単位と想定して掘り下げていたが、途中で土壙と判断した。弥生土器小片が１点出土している。

自然流路

SR-11は調査区南半部に展開する自然流路である。東から西へ流れ、調査区西側で大きく南へ方向を変える。河幅は、調査区東壁では20m以上、調査区南西部では約10mであることを確認できる。埋土の上層は暗褐色シルトや砂礫混じり暗褐色砂質土で、以下、灰色砂礫層・粗砂層・細砂層が堆積する。暗褐色シルト層や砂礫混じりの暗褐色砂質土中より弥生時代中期後葉から後期初頭までの遺物が出土している。

性格不明遺構

SX-13はSC-12の北側、CG・CH９区で出土した。当初東側の攪乱西壁での土層観察から、SC-12に切られると考えていたが、SC-12の埋土最上層と同一層であると考えた。SX-13の底面でSP-14・42・43、SX-51・52が出土した。埋土は暗褐色シルトで、弥生時代中期の遺物が出土している。

SX-15は調査区北西部CH８・９で出土した不定形遺構で、埋土は径１～２mmの砂礫主体で、一部暗褐色シルトを含む。土器片が１点出土している。

SX-16はCF９区で出土した暗褐色砂質シルトの溜まりである。弥生土器片が１点出土している。

SX-23は調査区北西部CF・CG８区で出土した、１辺50cmの長楕円形の落ち込み状遺構である。埋土は暗褐色砂質シルトで、径５cmの円礫を少量含む。

SX-51は調査区北西部CG・CH９区で出土した暗褐

写真47　00902調査Ⅰ区SR-11完掘状況（西から）

写真48　00902調査Ⅰ区SR-11遺物出土状況

写真49　00902調査Ⅰ区Ⅳ層上面検出遺構完掘状況（東から）

写真50　00902調査Ⅰ区Ⅳ層中遺物出土状況（東から）

写真51　00902調査Ⅰ区Ⅳ層中遺物出土状況（南から）

写真52　00902調査Ⅰ区Ⅳ層中遺物出土状況（南から）

写真53　00902調査Ⅰ区完掘状況（西から）

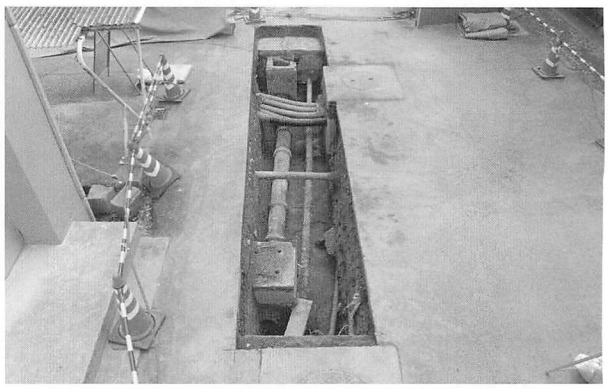


写真54　00902調査Ⅱ区完掘状況（西から）

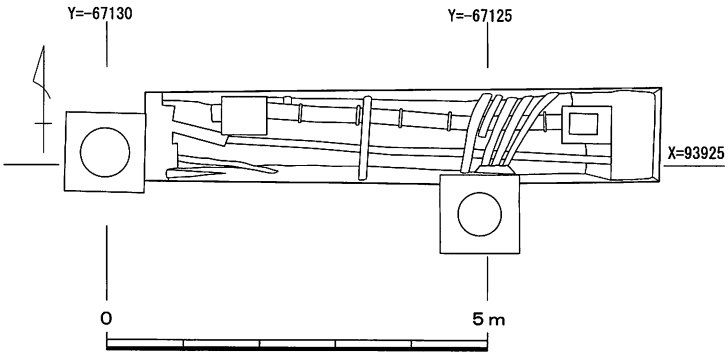


図10　00902調査Ⅱ区平面図（縮尺1／100）

色シルトである。底面は不定形である。

SX-52は調査区北西部CG・CH 9区で出土した三日月状の落ち込みである。

③Ⅳ層中検出遺構（図9、写真50～53）

調査区北半部にはⅣ層が堆積しており、Ⅳ層の上層であるにぶい黄褐色シルト中から炭化物集中地点を1ヵ所（SX-101）、縄文土器・石器・炭化物が比較的まとまって出土する遺物集中地点を5ヵ所で確認している。出土している土器片は、いずれも縄文時代後期に位置づけられることから、遺物集中地点も縄文時代後期段階の遺構と考えられる。

SX-101は調査区北東部CA 9区で、Ⅳ層であるにぶい黄褐色シルト層中から出土した炭化物集中地点である。明確な掘り形などはない。土器や石器なども共伴していない。

〔Ⅱ区〕（図10、写真54）

調査区中央部を東西方向にヒューム管などを始めとする多数の管路が走り、現地表下1.2mまで掘り下げを行なったが、Ⅰ層が続いていることを確認して調査を終了した。

3　まとめ

本調査では、古代～中世の溝、弥生時代中期末～後期初頭の集落跡、縄文時代後期の集落跡の一画を明らかにできた。その中でも、弥生時代中期末～後期初頭の集落跡の調査では、大きな成果を得ることができた。これまで38回におよぶ調査成果から、城北キャンパスの南西部を中心として、東西約300m、南北約200mの範囲に大規模密集型の集落が営まれていることが明らかになっている。さらに集落の内部は、大型掘立柱建物群からなる中枢域、竪穴式住居跡を繰り返し建て替えた居住域や高床式倉庫群などからなる貯蔵域などの存在が想定されている。39次調査地点は、大規模密集型集落の南東部にあたり、調査では、調査区の南半部で、自然流路SR-11が出土している。このSR-11が、大規模密集型集落の南東端を示すものと考えられる。

また、調査区の西端で出土した竪穴式住居跡SC-12は、貴重な資料である。SC-12は、文京遺跡における一般的な竪穴式住居跡ではあるが、残存状況に特徴がある。SC-12は自然流路SR-11の洪水砂によって埋没した後は、後世の削平をほとんど受けておらず、住居廃棄後の様子を良好にとどめている。このことから文京遺跡における竪穴式住居跡の構造を検討する際の基礎資料となると考えられる。（三吉）

00903（城北団地）60周年記念建物新営その他工事に伴う調査（文京遺跡40次調査）

調査地点　松山市文京町3番
　　愛媛大学城北団地

調査面積　919㎡
調査期間　2009年7月13日～10月19日

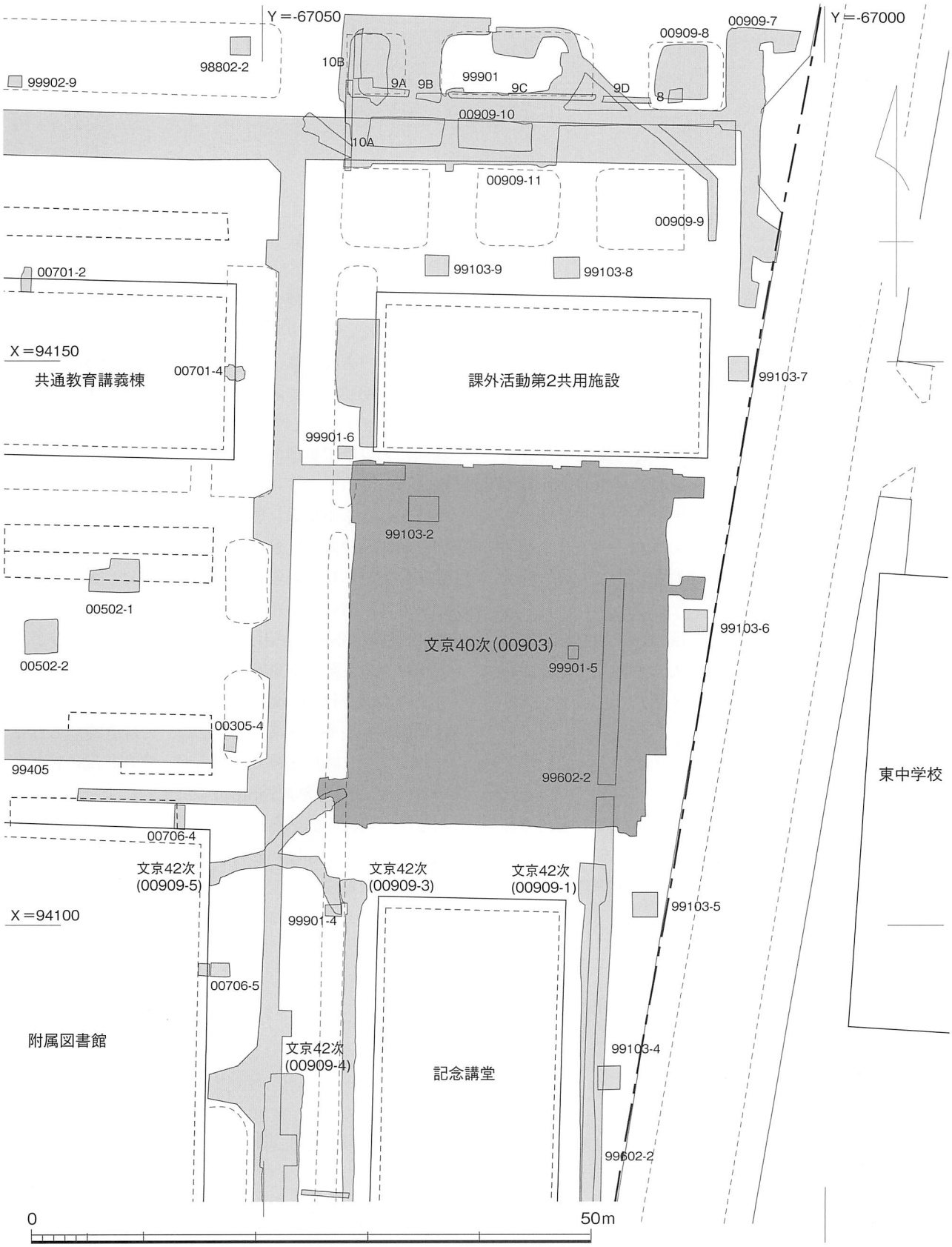


図11　00903調査地点位置図（縮尺1／500）

図12　00903調査遺構平面図・土層断面図（縮尺1／150）

調査の種別　本格調査
調 査 担 当　吉田広・田崎博之
調 査 補 助　宮崎直栄・濱田美加
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
（平成21年４月28日付）

１　調査にいたる経緯

記念講堂北側の駐輪場に60周年記念建物の新営工事が計画され、2009年４月末に施設基盤部から埋蔵文化財調査室に具体的工事内容が提示された。埋蔵文化財調査室では、15次調査５トレンチなど、工事範囲内で既往調査成果を有しており、これらに基づいて、５月７日付で施設基盤部長宛に、工事に伴う埋蔵文化財への影響を回答し、５月11日付けで松山市教育委員会へ土木工事等の届出書を提出した。土木工事等の届出に対する通知を６月12日付けで松山市教育委員会より受け取り、調査面積などを確認して、６月18日付けで発掘届を提出した。埋蔵文化財調査室と施設基盤部において埋蔵文化財調査経費に関する協議を進め、その後決定した発掘施工業者も加えて、工程調整など発掘調査準備を進めた。また、その間に一部工事範囲を縮減することにもなった。発掘調査に係わる届出に対する通知を７月８日付けで松山市教育委員会から受け取り、一部アスファルト除去などを先行しつつ、７月13日から発掘調査を開始することとした。

なお、本調査は、当初田崎が担当予定であったが、文京遺跡39次調査と御幸遺跡１次調査と３地点の発掘調査が並行する事態となったため、11月にミュージアムオープンを控えた吉田が急遽担当することとなった。事前調整途中から引き継ぎ、発掘調査開始から、ミュージアム開館が直近に迫った10月上旬まで吉田が担当し、最終盤を御幸遺跡の調査を終えた田崎が担当した。

２　調査の経過

発掘調査は７月13日に開始し、攪乱や梅雨終盤の降雨に悩まされながら、７月24日までを本体調査区の表土掘削に要した（写真55）。続いて工程の都合上、南側のガス管埋設に伴う調査を先行させ（写真57）、新たなガス管埋設を完了した後、８月３日から改めて本体調査に移行した。重機掘削後の精査を行うと、Ⅲ・Ⅳ層の上面で砂質土・砂層からなる流路内堆積が広がり、この掘り下げと調査に進んだ。真夏から残暑厳しい中での作業（写真58）の後、流路群の掘り下げを完了し、写真撮影を終えたのが９月17日（写真56）。ただし、建築に伴う掘削の及ばない平面範囲を畦状に残すとともに、深度的に掘削の及ばない範囲も、流路内堆積が下に続いていながら、発掘調査による掘り下げを停止している。続いて調査区東部にわずかに残るⅢ層を掘り下げたが、遺物・遺構とも非常に少なく、９月22日にⅢ層掘り下げを完了した。

この段階で、通行者の多い学内道路脇での調査ということを考慮して、平日金曜日の９月25日に現地説明会を設定した。広報周知が十分でなかったが、約100名が参加した（写真59）。なお、現地説明会以外にも、調査区周囲囲障への調査内容掲示や、土器洗浄後の乾燥を外から見える位置とするなど、調査現場からの情報発信に努めた。

現地説明会終了後Ⅳ層の調査に移行し、壁際・畦際でⅣ層の断ち割りを行って堆積状況を確認し、一部では平面的な掘り下げを行った。調査区北部でⅣ層中から縄文土器が単独で出土するとともに、調査区南部では焼土・炭化物の集中を確認した。

そして、10月19日にすべての調査・記録を終え、10月20日付で埋蔵文化財発見届・保管証を提出した。

３　調査の概要

調査地点は、城北団地正門横の記念講堂北側、課外活動第２共用施設南側の駐輪場部分であり、面積919㎡（図11）。出土遺物はコンテナ27箱分。縄文時代の土器・焼土・炭化物から、弥生時代、古墳時代、さらに中世に及ぶ土器・石器などが出土している。以下、出土層位ごとに、遺構を中心に概要を報告する。

（1）Ⅲ層上面（Ⅱ層下面）出土遺構の調査（図12）

城北団地基本層序のⅠ・Ⅱ層を重機により除いて精査したところ、調査区東部でⅢ・Ⅳ層が出土した他は、Ⅲ・Ⅳ層の上に砂質土・砂層が調査区西部に広がることを確認した。埋没単位や切り合いを精査して、SR-002・003・008 ～ 013・015・016・020・023、SX-004・005・014・017 ～ 019、SK-007、SP-001・006・021・022の遺構を認めた。以下、遺構ごとに概要を述べる。

SP-001　ガス管埋設に伴い先行した調査区（以下ガス管調査区）のBR43区Ⅱ層直下のⅣ層上面で出土した小穴。径10cm前後・深さ約７cm。埋土はにぶい暗褐色砂質土。遺物は出土していない。

写真55　00903調査表土掘削後全景（南から）

写真56　00903調査Ⅲ層上遺構全景（南から）

写真57　00903調査ガス管調査区（西から）

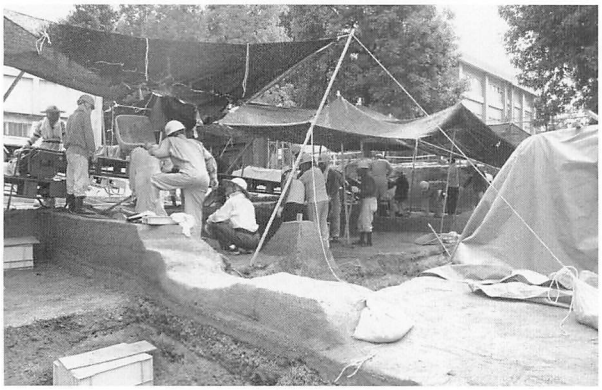


写真58　00903調査作業状況

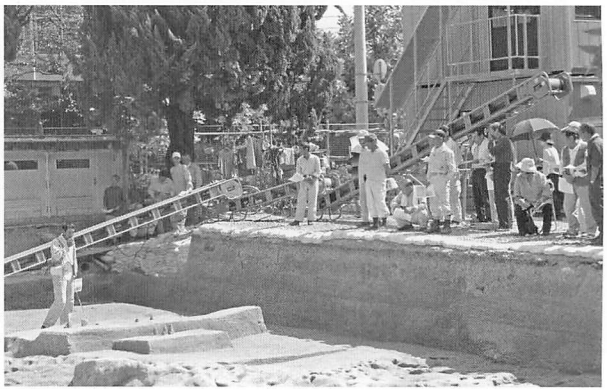


写真59　00903調査現地説明会

SR-002　ガス管調査区のBU42区Ⅱ層直下で出土した東北東から西南西方向に及ぶ流路内堆積。本体調査SR-020より連なる。東側はⅣ層の上に被り、西側は当初Ⅲ層としたSX-004の上に被る。埋土はにぶい黄褐色砂質土・砂礫質土を中心とし、弥生土器が出土した。なお、ガス管埋設に必要な深度以上の掘削は行っておらず、東部で標高28.30m以下、西部で28.10m以下には、SR-002の堆積が残っている。

SX-004　ガス管調査区BV42区Ⅱ層直下で出土した東北東から西南西方向に広がる堆積。東側をSR-002に、西側をSR-003に切られる。城北団地基本層序Ⅲ層に共通する暗褐色砂質土であるが、狭い範囲での検出と北側本体調査区での流路内堆積の広がりから、流路内のⅢ層再堆積層の可能性もある。遺物は出土していない。約30cmを掘り下げ、東部で標高28.10m以下、西部で28.00m以下には、SX-004の堆積が残っている。

SR-003　ガス管調査区BV・BW42区Ⅱ層直下で出土した流路内堆積。本体調査SR-020より連なる。東側はSX-004、北側はSX-005の上に被る。埋土は砂粒・砂礫を多く含みラミナの発達した褐灰色砂質土を中心

写真60　00903調査Ⅲ層上遺構全景（北東から）

写真61　00903調査SR-008土層（北東から）

写真62　00903調査SR-008・010合流部土層（北西から）

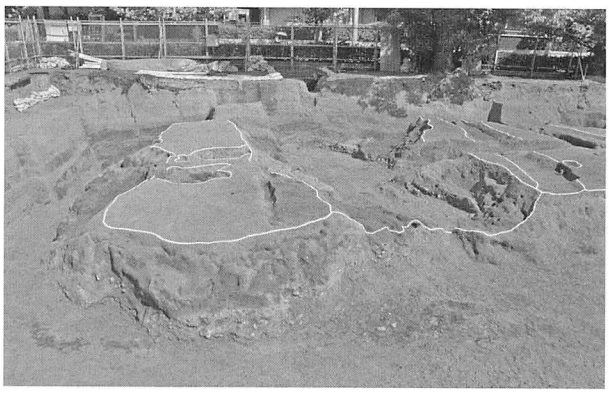


写真63　00903調査SR-009～011（北西から）

写真64　00903調査SR-010土層（西から）

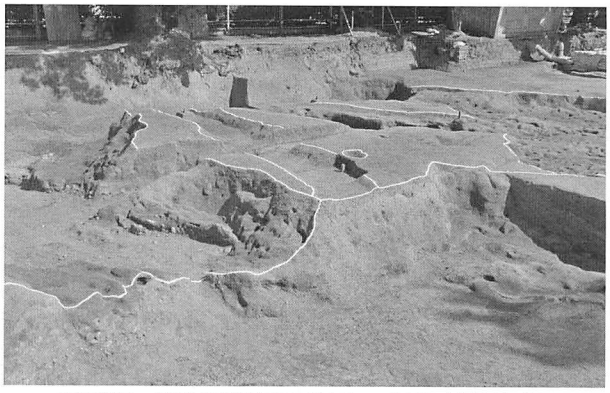


写真65　00903調査SR-010～013（北西から）

とし、弥生土器が出土している。40～50cmを掘り下げ、東部で標高28.10m以下、西部で27.90m以下には堆積がなお続いている。

SX-005　ガス管調査区BW42区のSR-003下で出土したシルト質が強い暗褐色砂質土の堆積。調査時にはSP-005としたが、SR-003北岸下部にあたり、SR-003同様南側に落ち込む堆積で、流路内岸部に溜まり状に堆積した単位の可能性が高い。遺物は出土していない。

SP-006　ガス管調査区BW43区西壁際のⅡ層下で出土した柱穴。SK-007を切る。西側半分は調査区外に続き、径30cm前後・深さ約10cmで埋土は暗褐色砂質土。径約15cmの柱痕が認められる。

SK-007　ガス管調査区BW43区で出土した土壙。SX-005・SP-006に切られる。当初Ⅲ層として掘り下げ、記録時にはSX-007としたが、Ⅳ層の掘り込みが明確でSK-007とする。埋土は砂質の強い暗褐色砂質土。弥生土器が出土している。

SR-008　調査区の約半分、北西部に偏って出土した流路。調査区北側から南流し、BT45区附近でほぼ90度西側に流れを転じ、調査区西外へと流れ出

写真66　00903調査SR-011土層（西から）

写真67　00903調査SR-012土層（西から）

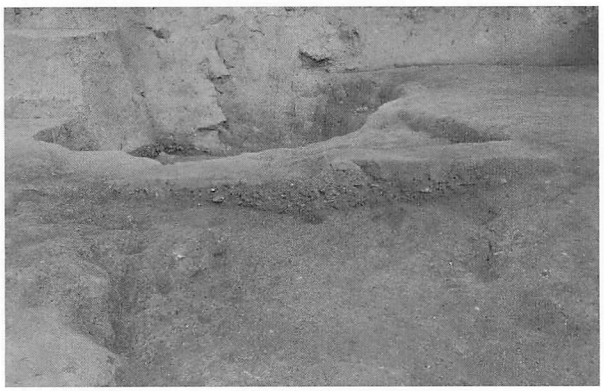


写真68　00903調査SR-013土層（西から）

写真69　00903調査SR-015・020（東から）

写真70　00903調査SR-008・016・023土層（東から）

写真71　00903調査SX-018・019（南西から）

る（写真60）。Ⅱ層直下で出土し、上部40～100cmは砂・砂礫質土・砂礫・砂と互層状に堆積し、その下部に20cm大の塊石を多く含む砂礫が厚く堆積する（写真61）。建物建設に伴う掘削が浅い部分（BT47･48～BW47･48区、BT45～BW45区）は畦状に未掘のまま残すとともに、掘削深度である標高26.40m以下も、SR-008の堆積を残したままである。SR-008は、その東側および南側の別単位の流路であるSR-009・010・011・015・020・016を切り（写真62）、出土流路で最も新しい埋没単位で、北東部のSR-009堆積上部には、SR-008最上部の堆積が20～30cm被る。SR-008からは、下部の砂礫層を中心に多くの遺物が出土し、弥生土器・石器・土師器・須恵器・瓦を含み、土師器の中には赤彩の施されたものも認められる。これらの最新相から、奈良時代には埋没した流路と位置づけられる。

SR-009　調査区北東隅のBR･BS48区Ⅱ層直下で出土した流路。Ⅳ層の高まりが岸をなして緩やかに北側に傾斜し、北壁際で約130cmの深さで、調査区外へとさらに落ち込みは続く。調査できたのは南北3～3.5m幅程度（写真63）。埋土はSR-008と同じく、上部に砂・

砂礫が互層状に堆積し、下部に20cm大の塊石を含む砂礫層が堆積する。出土遺物も、奈良時代以前の弥生土器・土師器・須恵器とSR-008に共通する。SR-008と大きくは一連の流路内堆積で、本来SR-009として西流していた流れが、SR-008の氾濫によって最終的に埋没したと推測される。

SR-010　BQ46･47～BS46･47区のⅡ層直下、Ⅲ･Ⅳ層上面で出土した西流する流路（写真63・65）。西側をSR-008に切られ（写真62）、SR-011を切る。南北幅５～７ｍと東側にやや広く、深さ90～100cm。埋土は、南岸際最上部に平面的にはとらえられなかったが別単位とも考えられる、１～20mm大の角のとれた砂粒･砂礫からなる砂礫層があり、その下全域上部に砂･砂礫・砂質土が30cm程度互層をなし、最下部60cm前後は５cm前後の円礫を多く含む砂礫層を主体とする（写真64）。南岸際最上部の砂礫層と最下部の砂礫層から、弥生土器・石器・土師器といった遺物を多く出土したが、いずれも須恵器を含まず、最新相として古墳時代前期の布留系甕が見られる。

SR-011　BQ45･46～BS45･46区のⅡ層直下、Ⅲ層上面で出土した西流する流路（写真65）。SR-008・010・012に切られる。幅1.0～1.3m、深さ20cm前後。埋土は２mm以下の砂粒からなり、しまりがある（写真66）。弥生土器が出土している。

SR-012　BQ～BS45･BS44区のⅡ層直下、Ⅲ層上面で出土した北東から南西流する流路（写真65）。西側でSR-013と平面的に合流してSR-015となる。SR-012に連なる落ち込みがSR-015底面に認められるが、SR-012・013・015の切り合い関係は不明で、SR-015の東側約２ｍ幅で一定の範囲をSR-012としている。底面の凹凸が激しく、深さ60cmに及ぶ箇所もある。埋土は５mm以下の砂礫や砂、砂質土が互層をなす（写真67）。出土遺物には縄文時代晩期終末から弥生時代前期の土器を多く含む。

SR-013　BR44区のⅡ層直下、Ⅲ層上面で出土した北東から南西流する流路(写真65)。先記したように、SR-012・013・015の切り合い関係は不明で、SR-015の東側幅約２ｍとほぼ一定の範囲をSR-013とし、長さ約２ｍ、深さ20cm前後で、埋土は砂質土と３mm以下の砂礫層からなり（写真68)、出土遺物には弥生土器･台石･砥石があり、弥生前期の土器を含む。

SR-015・020　既に記したように、SR-012・013が平面的に合流した以西の流路内堆積をSR-015とした。このうち、BT･BU43･44区に大きな攪乱があり、これを挟んでBT区以東をSR-015、BU区以西をSR-020とした。埋土は砂質土・砂・砂礫からなり、下部に砂礫が多い（写真69)。流路底面および岸部のⅣ層は砂質が強く流路内堆積との判別が難しく、掘り過ぎた部分もある。出土遺物には弥生土器・石器があり、縄文時代晩期終末から弥生時代前期、弥生時代中期後葉の土器を含む。

SR-016　最初の掘り下げ時にはSR-008と一括していたが、調査区西壁の精査により、SR-008から分離した流路。SR-008の南岸、BU～BW44区に広がり、南側でSR-023を切る。西壁で80cm前後の深さがあり、埋土は１～５mm大の砂・砂礫を主体に細砂・微細砂・シルトがラミナ状に互層堆積をなす（写真70)。中期後葉の弥生土器が出土している。

SR-023　調査区西壁の精査により、SR-016に切られた流路（写真70)。平面的にSR-016の南側、BV･BW43･44区に広がるとみられるが、SR-020との関係詳細は不明。埋土は１mm以下の砂粒を多く含む黄灰色砂質土。弥生土器が出土している。

SX-014　BS･BT44区のⅡ層直下、Ⅳ層上面で検出した落ち込み。SR-015を切る。平面は東西約2.2m・南北2.0mの不整楕円形で、深さは皿状に約15cmを測る。暗いオリーブ褐色砂質土が最外縁部幅10cm前後を周り、その上位内部に砂層がレンズ状に堆積する。弥生土器が出土している。

SX-017　BQ･BR47区の調査区東壁際、Ⅱ層下のⅣ層上面で出土した不整形の落ち込み。北側をSR-009に切られる。埋土は１～５mm大の砂粒・砂礫を多く含む砂質土で、底面の凹凸が激しく、流水に伴う堆積の最下部が残存したとみられる。弥生土器が出土している。

SX-018　BR47区のⅡ層下のⅣ層上面で出土した、南北約1.9m・東西約１ｍの不整形の落ち込み。南側をSR-010に切られる。埋土は１～５mm大の砂粒・砂礫を多く含む砂質土と３cm大の円礫を多く含む砂礫層からなり、底面の凹凸が激しい。流水が抉った底面最下部の堆積の残存とみられる（写真71)。弥生土器が出土している。

SX-019　BS47区のⅡ層下のⅣ層上面で出土した、南北約1.7m・東西約1.3mの不整形の落ち込み。北側をSR-009に切られる。埋土は１～５mm大の砂粒・砂礫を多く含む砂質土と３cm大の円礫を多く含む砂礫層か

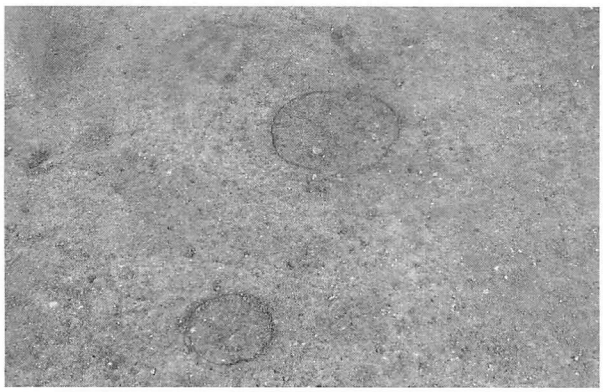


写真72　00903調査SP-024・025検出（西から）

写真73　00903調査Ⅲ層完掘（北西から）

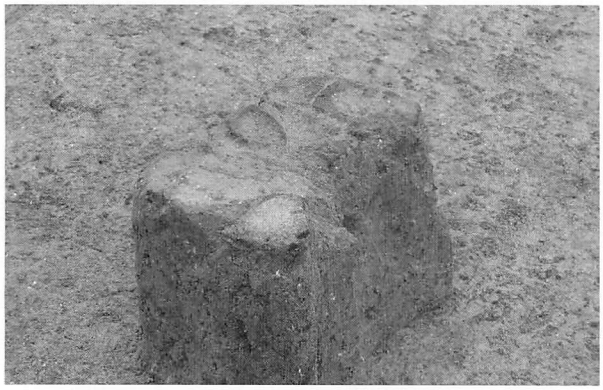


写真74　00903調査BS47区土器出土（北東から）

写真75　00903調査BS･BT43区Ⅳ層焼土等集中部（南から）

写真76　00903調査BR47・48区Ⅳ層断割（南西から）

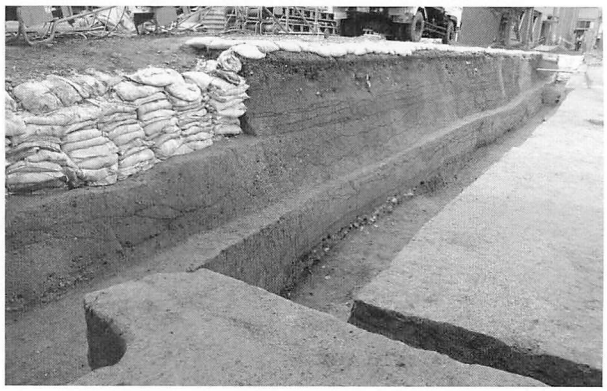


写真77　00903調査南壁土層（北東から）

らなり、底面の凹凸が激しい。流水が抉った底面最下部の堆積の残存とみられる（写真71）。弥生土器が出土している。

SP-021・022　BS45区のSR-011の南側、Ⅱ層下Ⅲ層上面で出土した小穴。埋土は3㎝前後の円礫。当初別々に認識していたが一連となってしまい、切り合いなどの詳細は不明。

(2) Ⅲ層とⅢ層下面出土遺構の調査

Ⅲ層が残存した範囲は、調査区東部のBQ44区、BR43～46区、BS45・46区、しかもSR-010・012間、SR-012・013間とSR-013以南の流路間と非常に狭い。流路群ほかのⅢ層上面出土遺構の調査の後、Ⅲ層の掘り下げを行った。Ⅲ層は黒褐色の砂質土で1～3㎜大の砂粒、砂礫を多く、1～3㎝大の円礫、5～10㎜大のⅣ層ブロックを少し含んでしまりが強い。調査区南東隅部では上部を削平され、北側に傾斜して厚みを増し20㎝程度までなるが、SR-009・010間には及ばない。城北団地南西部のⅢ層と異なり砂粒・砂礫の包含が多く、遺物をほとんど含まない。全体でも20数点ほ

どの出土で、Ⅱ層の掘り残しとみられる中世土師器の他、弥生土器小片、縄文晩期土器、結晶片岩片がある（写真73）。

Ⅲ層下面、Ⅳ層上面で出土認識した遺構は、SP-024～031。SP-031が南電灯区東壁出土の他は本体調査区。いずれも小穴で（写真72）、柱痕跡も明確でなく、建物を構成するような並びとならない。唯一SP-027が、南北約60cm・東西約35cmの長楕円形で７cm程度の深さに、径約15cmの柱部が約20cm深く設けられている。

（3）Ⅳ層の調査

Ⅳ層については、調査区南壁際とＹ＝-67018のラインで南北方向に設定した畦際で断ち割りを行って堆積状況の確認を行った（写真76・77）。その結果、本調査地点のⅣ層は、上からⅣ-①層～④層に４大別できる。Ⅳ-①層は黄褐色砂質土で、１～５mm大の白色の砂粒・砂礫を多く含み、砂質が強い。調査区南部で厚く、北部では下部でシルト質を増す。Ⅳ-②層は黄灰色砂・砂礫層。調査区南部に広がり、北部では認められない。Ⅳ-③層は黄褐色の砂質シルトで、１～３mm大の白色の砂粒・砂礫を少し含み、全体に鉄分が斑らに沈着して、粘性がある。Ⅳ-④層は、にぶい黄色から黄褐色の砂質土で、細砂・微細砂・シルトがラミナ状に混じる。とくに調査区南壁では、土壌化の進んだ細砂層の断続的堆積が認められる。Ⅳ層下は、５cm大から人頭大の塊石を多く含んでしまりのあるⅤ層である。

上層の調査段階において調査区南東部のⅣ層（Ⅳ-①層中）で焼土・炭化物の出土を確認していたことから、断ち割り西側で、Ⅳ-①・②層を平面的に掘り下げた。実際に掘り下げたのは、東部BS47区のSR-009・010間と、SR-008南側のBS43・44～BW43・44区である。前者では、比較的大きな縄文土器片が出土した。周辺の精査を行ったが、他に土器・焼土・炭化物は存在せず、掘り込み等も認められなかった（写真74）。一方、後者のBS・BT43区では焼土・炭化物・土器細片が集中して出土した。平面的な遺構検出はできなかったが、断面観察からⅣ-①層の落ち込み中に集中する可能性が高い（写真75）。

4　調査成果のまとめ

40次調査においては竪穴式住居跡や柱穴など、直接生活に関わる遺構はほとんど出土せず、埋没流路群が調査地点に集中するという状況が明らかとなった。およそ弥生時代から奈良時代にかけて、調査地点が一貫して北側に流路（落ち込み）を控えた場所に位置し、度々氾濫を被ってきたのである。このうち、最新で本流に相当するSR-008・009は、下流の34次調査SR-401・901、18次調査SR-400・25次調査SR-301に連なり、古墳時代前期に埋没するSR-010は、34次調査SR-1001・36次調査SR-801・1101に連なると考えられる。

今後本報告にむけて、出土遺物の詳細、周辺調査との比較による地形復元等の検討を行っていくところである。（吉田）

00904　（城北団地）課外活動施設新営その他工事に伴う調査

調査地点　松山市道後樋又10番13号
　　愛媛大学城北団地
調査面積　16.5㎡
調査期間　2009年６月９日
調査の種別　試掘調査
調査担当　田崎博之・三吉秀充

1　調査にいたる経緯

2009年２月、施設基盤部より課外活動施設新営工事計画の提示があった。この段階における新営予定候補地は文京町３番地区とされていた。その後、文京町３番地区から樋又地区北東角に新営予定地が変更となり、具体的な掘削工事範囲・深度に関するデータが埋蔵文化財調査室に提示された。

大学本部や職員会館などが所在する樋又地区は、周知の埋蔵文化財包蔵地外とされてきたが、試掘調査や工事立会（99502、00107等）で、弥生～中世の遺物が出土するなど、縄文時代から中世におよぶ複合遺跡で

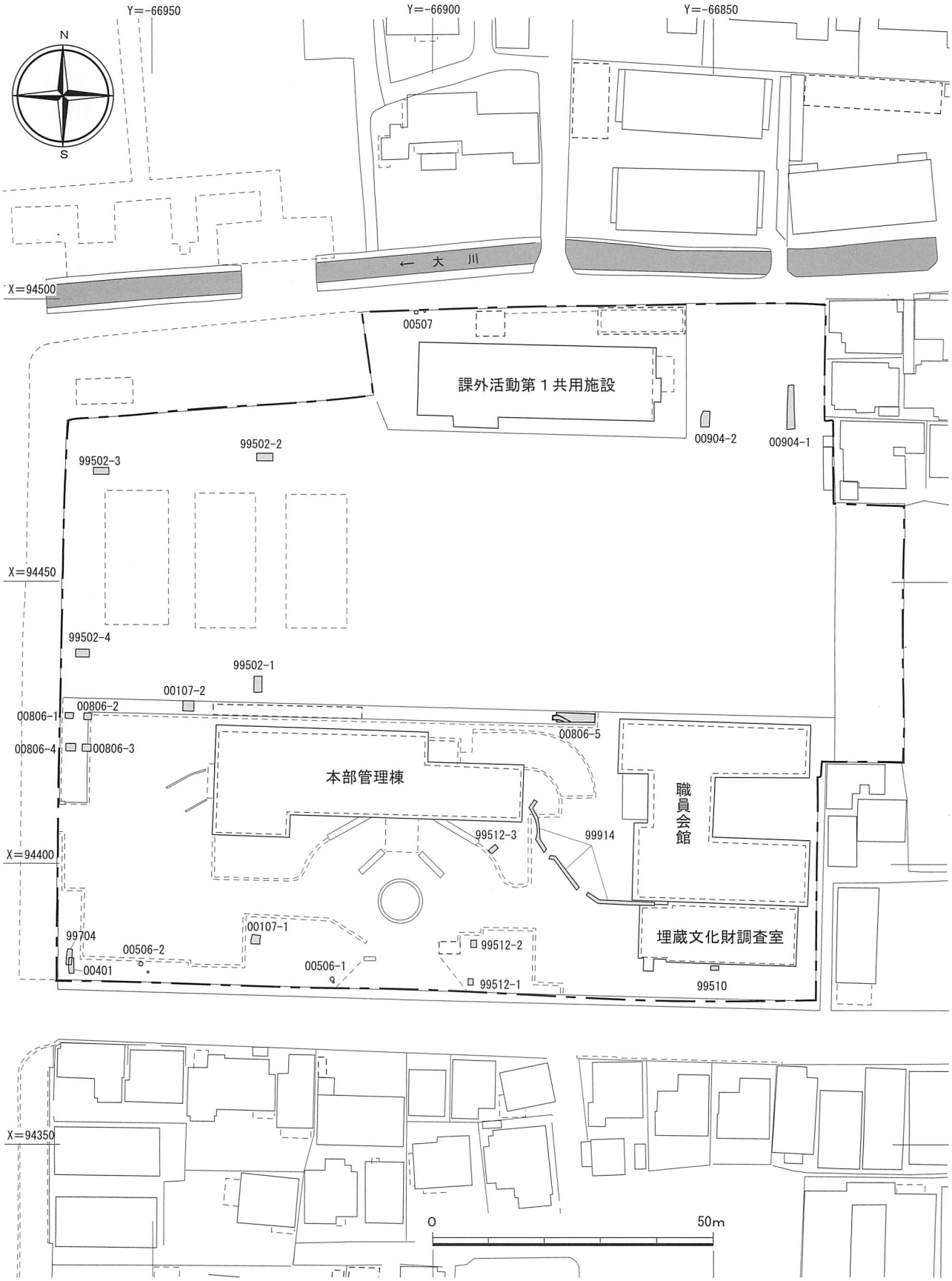
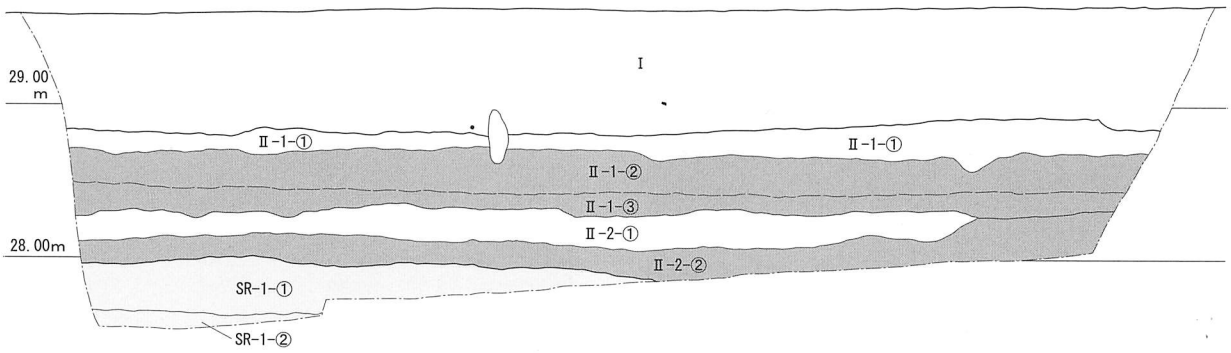


図13　00904調査地点位置図（縮尺1／1000）

①１トレンチ西壁土層断面



②２トレンチ西壁土層断面

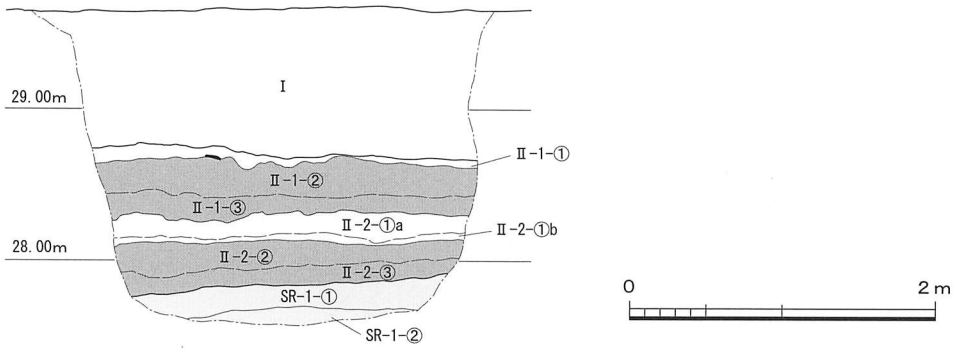


図14　00904調査１・２トレンチ土層断面図（縮尺１／50）

あることが周知されるに至っている。しかし、今回の課外活動施設新営工事地点における詳細は把握していないため、試掘調査を実施することとした。

２　調査の記録

工事予定範囲の南東角に１トレンチ、南西角に２トレンチの計２ヶ所の調査区を設定した（図13、写真78）。

（1）基本層序

１・２トレンチともに、現地表下90cmまで真砂土及び真砂土混じりの灰褐色砂質シルト質土である造成土のⅠ層が続き、その下層で明褐色シルト質土層と砂礫層が互層堆積するⅡ層があらわれた。Ⅱ層は、明褐色シルト質土層と砂礫層は互層堆積で、層厚80～100cmを測り、Ⅱ-１層とⅡ-２層に大別できる。さらに下層の現地表下175～185cmで細砂層及び拳大の円礫と粗砂からなる砂礫層を確認した。河川堆積物と考え、SR-１とした。１・２トレンチの土層観察結果は、以下の通りである。

（2）１トレンチ（図14、写真79～81）

１トレンチは工事予定範囲の南東角に設定した長さ7.8mの調査区である。

造成土であるⅠ層は層厚下74～77cmを測り、弥生土器もしくは土師器と考えられる土器片、煙管の雁首が出土した。

Ⅰ層の下層に堆積するⅡ-１層は、１トレンチでは、Ⅱ-１-①層～Ⅱ-１-③層に細分できる。Ⅱ-１-①層は小礫混じりの灰白色細砂層で、部分的に粗砂や細砂のラミナがみられる。下層のⅡ-１-②層は、明褐色粘質シルト質土層で、土質は締まっていない。土壌化・攪拌痕跡が認められ、団地造成以前の水田耕作土層と判断した。Ⅱ-１-③層は明黄褐色粘質シルト質土で、Ⅱ-１-②層の床土部分に当たる。

Ⅱ-２層は、上部の灰褐色砂礫層と、下部の粗砂・小礫混じりの灰色粘質シルト質土層から構成される。上部の灰褐色砂礫層は、上層の水田層の影響を受けて

写真78　00904調査調査地点遠景（南西から）

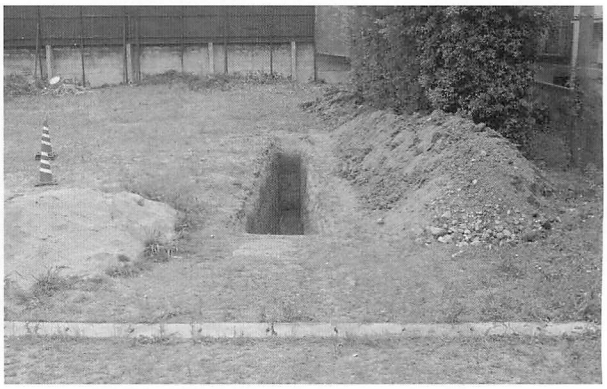


写真79　00904調査１トレンチ全景（南から）

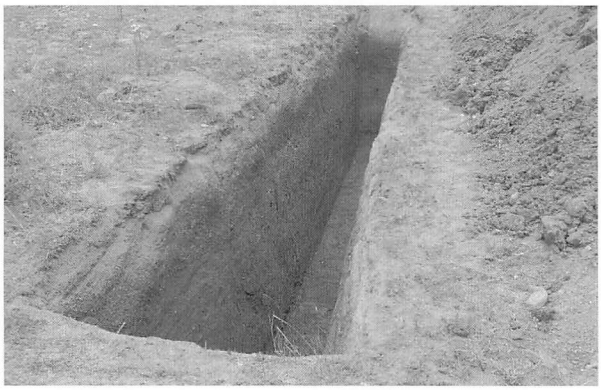


写真80　00904調査１トレンチ西壁土層（南東から）

写真81　00904調査１トレンチ西壁土層（南端部）

写真82　00904調査２トレンチ全景（南から）

写真83　00904調査２トレンチ西壁土層

シルト質をおびる。Ⅱ-２-①層とした。下部の灰色粘質シルト質土層は、攪拌痕跡が認められることから水田耕作土層と考え、Ⅱ-２-②とした。土質は締まっていない。

Ⅱ層下の現地表下165～177cmで、ラミナが発達する灰白色細砂層があらわれ、SR-１最上部に堆積する砂層とし、SR-１-①層とした。また、トレンチ南端を深掘りしたところ、拳大の円礫と粗砂からなる砂礫層があらわれ、SR-１-②とした。

（３）２トレンチ（図14、写真82・83）

２トレンチは工事予定範囲の南西角に設定した長さ３ｍの調査区である。

造成土に当たるⅠ層の層厚は90～97cm、その下層にはⅡ層が堆積する。１トレンチと同様に、Ⅱ-１層とⅡ-２層に分層できる。

Ⅱ-１層の最上部のⅡ-１-①層は、小礫混じりの灰白色細砂層で、部分的に粗砂や細砂のラミナがみられる。中層のⅡ-１-②層は、明褐色粘質シルト質土層で、土質は締まっていない。土壌化・攪拌痕跡が認められ、

トレンチ南半部では畦畔状の高さ３～５cmの高まりを確認でき、１トレンチと同じく団地造成以前の水田耕作土層と判断した。Ⅱ-１-③層は明黄褐色粘質シルト質土で、Ⅱ-１-②層の床土部分に当たる。２トレンチでは、Ⅱ-１-①層とⅡ-１-②層の層境で土師質土器片が出土した。土師質土器片は、精製された胎土をもち、轆轤成形のもので、近世後半～近代のものと考えられる。

Ⅱ-２層も、最上部にシルト質をおびた灰褐色砂礫のⅡ-２-①層と、水田層と考えられる粗砂・小礫混じりの灰色粘質シルト質土であるⅡ-２-②層が堆積する。しかし、２トレンチでは、Ⅱ-２-①層下部には灰褐色砂礫層が薄くみられたので、上部のシルト質をおびる部分をⅡ-２-①a層、最下面の砂礫層をⅡ-２-①b層とした。また、Ⅱ-２-②層の下部には、粗砂・小礫が混じるやや黄色みをおびた灰色粘質土層があり、水田床土層としてⅡ-２-③層としている。

２トレンチでは、現地表下175～185cmでは、ラミナが発達する灰白色細砂層があらわれた。１トレンチのSR-１-①層と対応する砂層である。その下部の拳大の円礫と粗砂からなる砂礫層は、１トレンチのSR-１-②層と対応する砂礫層である。２トレンチでは、SR-１-②層の最上面から土器片が出土した。器表面は著しく摩滅しており、時期は明らかでない。

３　調査のまとめ

今回の調査では、造成土層であるⅠ層の下層で、上下２層の水田層（Ⅱ-１-②・③層及びⅡ-２-②・③層）を確認できた。２トレンチでは、近世後半～近代と考えられる土師質土器片が出土し、Ⅱ-１-②・③層は当該期の水田層と判断できる。また、Ⅱ-２-②・③層からは遺物は出土していないが、締まりがない土質である点から、上層と同じく近世後半～近代の水田層と推定できる。

また、SR-１からは、２トレンチのSR-１-②層の最上面から土器片が出土している。器表面が著しく摩滅しており、上流部から流されてきたものと判断できる。一方、昭和20年代の極東米軍撮影の航空写真を判読すると、今回の調査地点は、北側を流れる大川周辺と同じく一段低い地形面となっている。今回の調査で確認できたSR-１は、近世後半～近代の旧流路跡であると考えられる。（田崎）

00905　（御幸団地）学生寄宿舎新営その他工事に伴う調査（御幸遺跡１次調査１区）

調査地点　松山市御幸２丁目３番１号
　　愛媛大学御幸団地
調査面積　1102㎡
調査期間　2009年７月14日～10月５日
調査の種別　本格調査
調査担当　田崎博之
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成21年５月27日付）

１　調査にいたる経緯と経過

2007年12月６日、施設基盤部から次年度以降の御幸団地についての整備計画案が報告された。御幸団地には学生寄宿舎が所在し、中庭での建物新営工事、男子寮と女子寮の改修工事、寄宿舎管理棟の建て替え工事など、団地全域に及ぶ工事が計画されていた。

御幸団地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、埋蔵文化財調査室では、御幸団地西辺の外灯設置工事に伴う00008調査、防球ネット設置に伴う00405調査を実施し、中世の水田層があることを把握していた。その調査成果は、年報で報告していたが、埋蔵文化財の分布状況を十分把握しているとは言い難く、御幸寮整備に伴って埋蔵文化財にどのような影響が生じるか判断できない状況にあった。12月６日に同席していた施設基盤部長より、工事による埋蔵文化財への影響を確認してもらいたい旨の依頼があり、2007年度の確認調査として発掘調査を実施するとともに、既往の調査成果の再整理を進めることとした。

その結果、

①表土層直下の近現代の水田層の直下に厚さ５～10cmの厚さの砂礫層があり、これに覆われた中世の三

表５　御幸遺跡１次調査の区割りと調査期間

	調　査　区	調査面積	表　土　剥　ぎ	遺構・遺物の調査
１区	中庭部分	1,102㎡	2009年７月14日～７月31日	８月３日～10月5日
２区	旧女子寮建物南側	125㎡	2010年３月９日～３月17日、４月５日、４月12日	３月17日～４月19日
３区	旧女子寮建物北側	12.5㎡	2010年４月２日	４月５日～４月23日
４区	旧女子寮建物北側	40㎡	2010年４月５日～４月７日	４月８日～５月１日
５区	旧男子寮建物南側	155㎡	2010年４月13日～４月21日	４月21日～６月４日
６区	旧男子寮建物北側	270㎡	2010年５月７日～５月18日	５月21日～７月19日
７区	旧共通管理棟	400㎡	2010年６月１日～６月28日	７月20日～８月４日
８区	団地南・東・北側管路部分	87.6㎡	2010年11月24日～12月６日	
９区	団地西側管路部分	78.9㎡	2011年１月17日～２月９日	
合計調査面積		2,271㎡		

足付き土鍋の脚部破片や龍泉窯系青磁などの13～14世紀の遺物が出土する水田層が存在すること、

②団地東半部では、中世の水田層の下層に、粗砂・細砂からなる暗灰色砂礫土層があり、土壌化が進み攪拌された痕跡がみられるので、畠跡と考えられること、

③団地南半部では、近隣の文京遺跡でみられる弥生時代～古墳時代の遺構・遺物が包含される暗褐色土層と、縄文時代の遺物包含層である黄褐色シルト層が確認され、団地周辺の遺跡の発掘調査結果から当該期の遺構・遺物が出土する可能性が高いこと、

を把握できた。以上の判断を含めて、2008年１月20日付けで施設基盤部に対して、埋蔵文化財に配慮した御幸寮の整備計画の立案を依頼した。また、確認調査の結果を、2009年２月刊行の『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報―2007年度―』で報告した。

その後、埋蔵文化財調査室には、御幸団地の整備計画について施設基盤部からの連絡はなかったが、工事着手が迫る2009年５月11日、施設基盤部から御幸団地が埋蔵文化財包蔵地として追加されたとの松山市教育委員会よりの通知が報告された。５月13日、施設基盤部長を加えて、再度の経緯説明があり、発掘調査の依頼があった。既に工事契約がなされた後であり、埋蔵文化財調査委員会委員長でもある総務担当理事を中心として埋蔵文化財調査室と施設基盤部との協議を進め、工事計画と調査計画のすりあわせを行い、７月に発掘調査に着手すること、寄宿舎建物が完成する2010年度まで調査区を分けて発掘調査を実施すること、調査経費を確保すること、工事と同時並行して発掘調査を進めることとなるため安全確保に十分に配慮することなどを確認した。

今回の発掘調査に伴う調査区と調査経過は図15と表５の通りであり、ここでは2009年度に実施した１区の調査結果の概要を報告する。

２　調査の記録

１区の発掘調査は、2009年７月14日から開始した（写真84）。ところが、表土剥ぎ作業が終わった7月31日、１区の調査区西壁で、Ⅱ層上部から掘り込まれた穴の下半部に手榴弾らしきものが詰め込まれていることがわかり、確認を警察署に依頼することとした。翌８月１日、手榴弾らしきものは模擬弾である可能性が高く、善通寺の自衛隊処理班で対処する旨の連絡が、松山東署生活安全課からあった。午後３時過ぎ、自衛隊処理班が到着。発見までの経緯を簡単に説明。すでに掘り上げられていたものは、鉄製とゴム製の模擬弾であると説明を受ける。その後、処理が開始され、約２時間かけて処理作業が終了した。結果的に、手榴弾（信管と火薬を抜き木の棒を差し込んだもの）３個、鉄製の模擬弾約110個、ゴム製の手榴弾30個ほど、銃部品の破片、多数の薬莢、薬瓶などが埋められていた（写真85・86）。自衛隊、松山東署と協議し、このうち、手榴弾３個、鉄製の模擬弾10個、ゴム製の手榴弾10個ほ

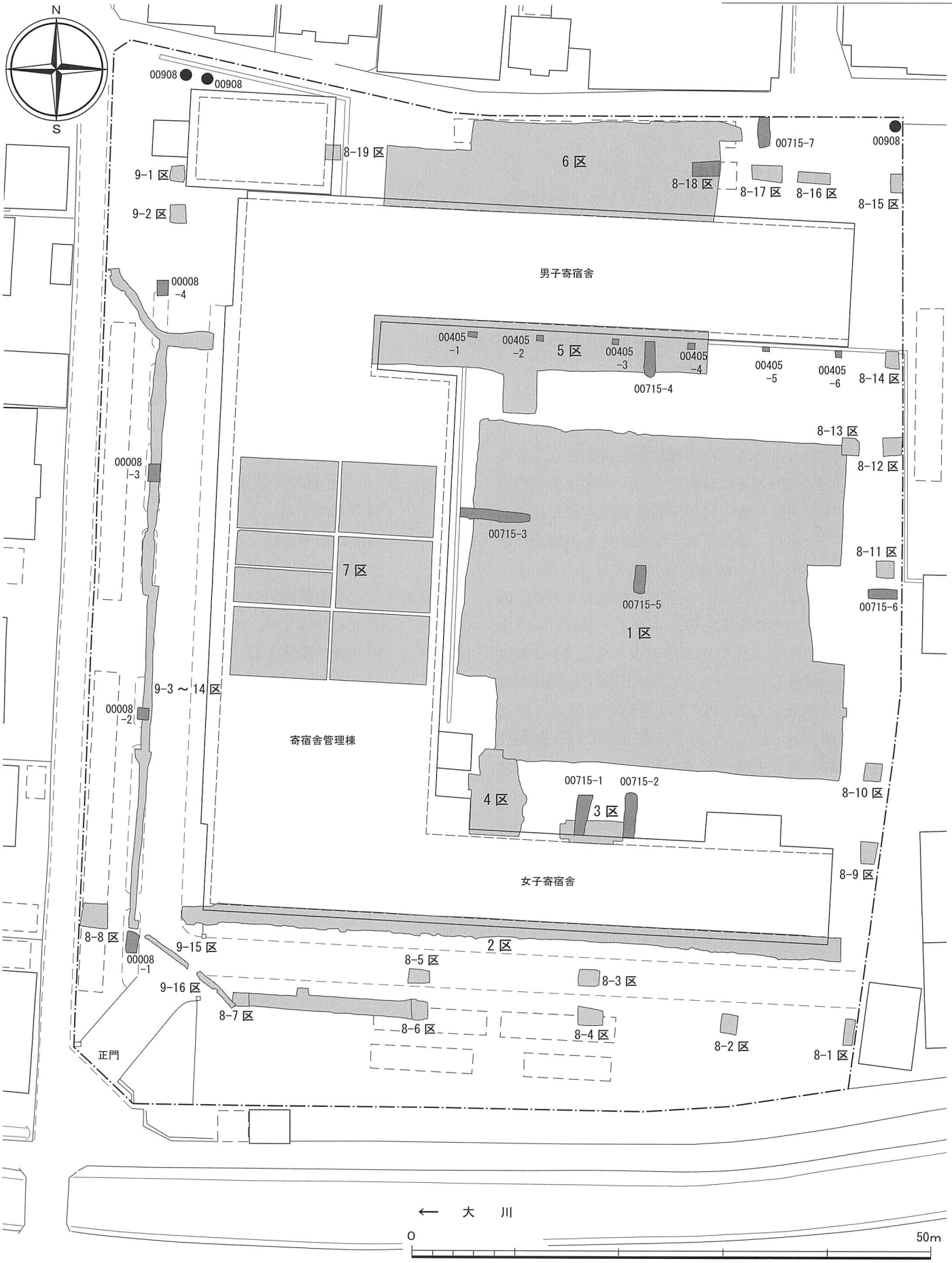


図15　00905調査区配置図（縮尺1／500）